

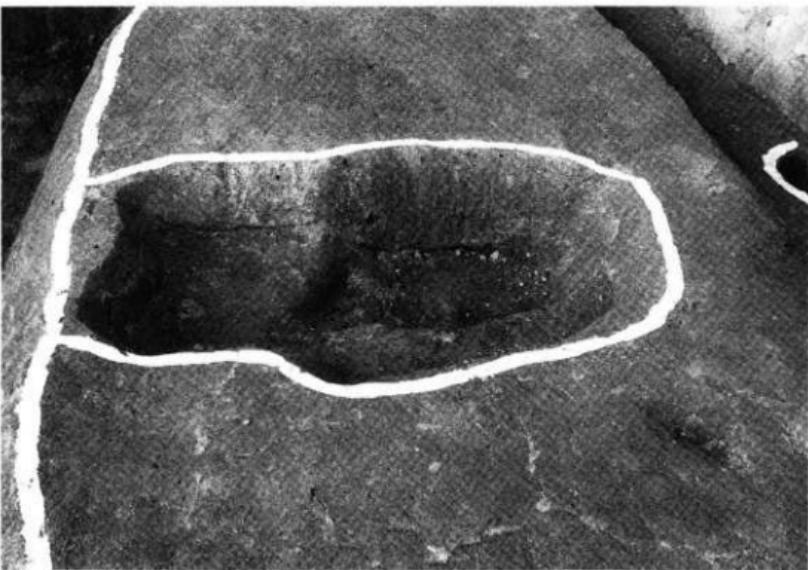
図版一六 第13次調査地



1 SK 1 (北から)



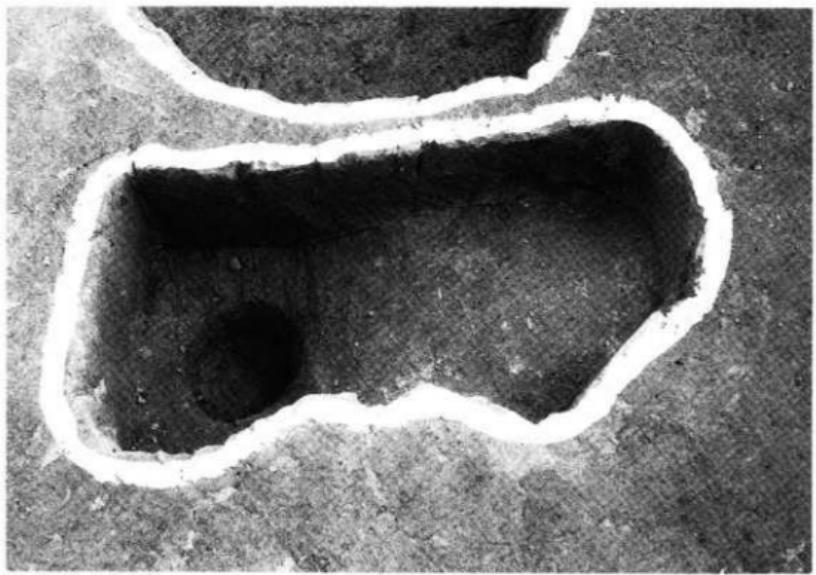
2 SK 1長頸壺 (東から)



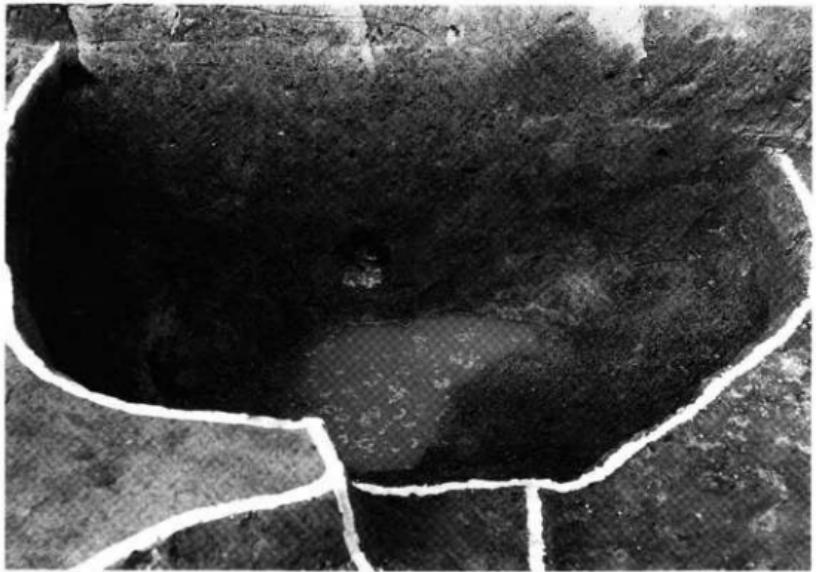
1 SK 6 (南から)



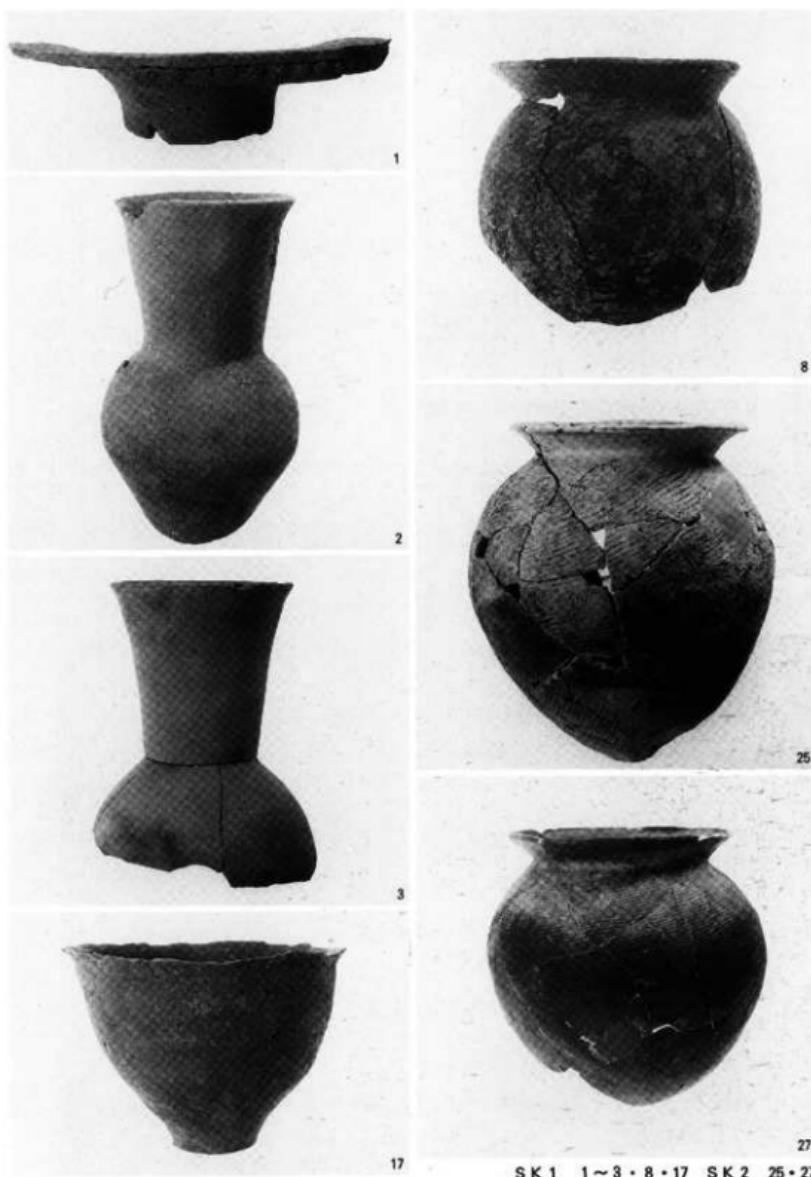
2 SK 9 (南から)



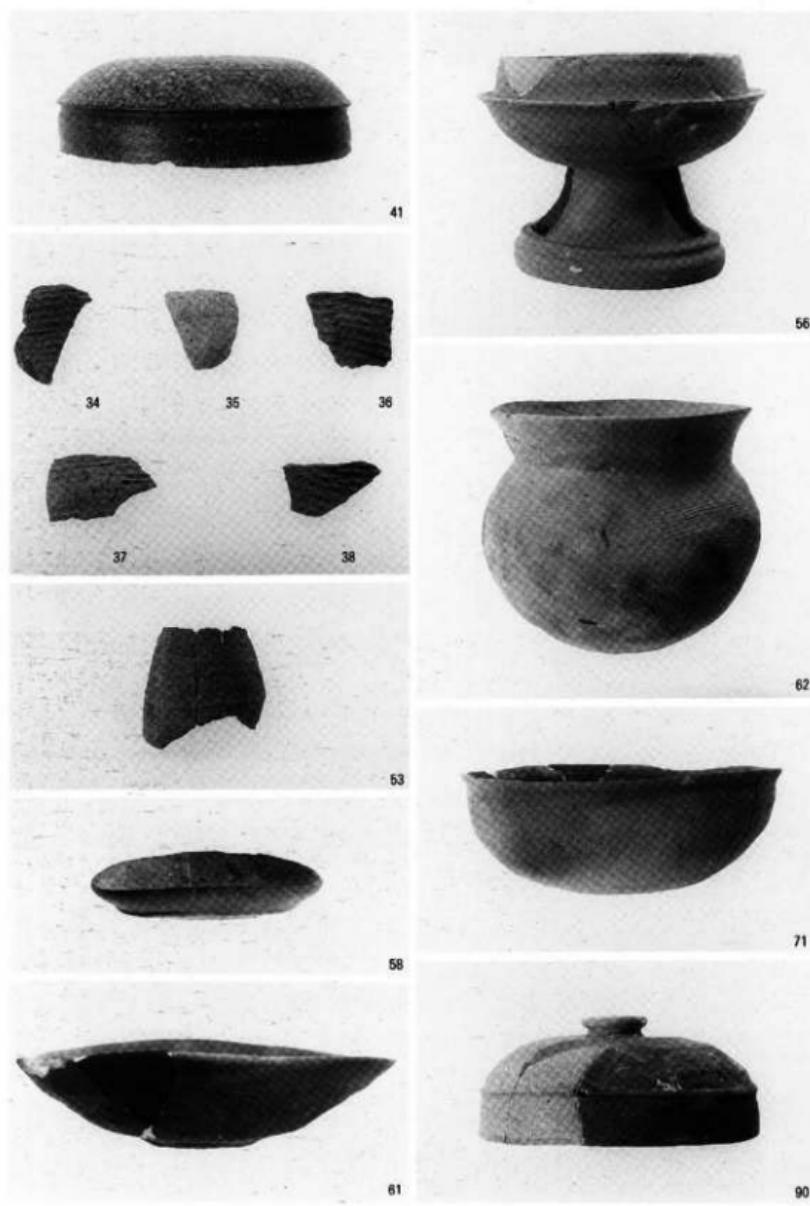
1 S P 3 (北から)



2 S E 1 (南から)



SK1 1~3・8・17 SK2 25・27



SK 4 34~38・41 SK 10 53・56  
SE 1 58・61 包含層62・71・90

図版二  
第14次調査地



1 調査区全景（南から）



2 SII (北東から)



1 S I 2 (南から)



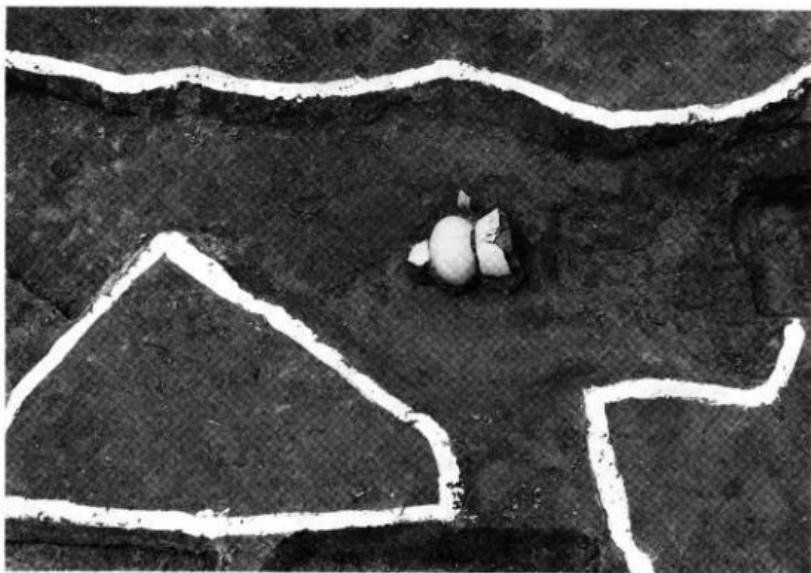
2 S K 8 (南から)



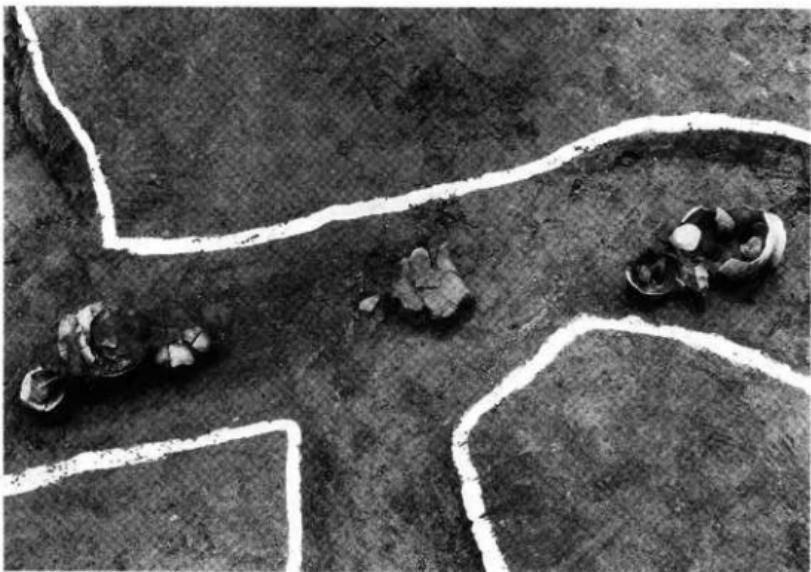
1 SK9 (西から)



2 SK11 (南から)



1 SD12 西部（東から）



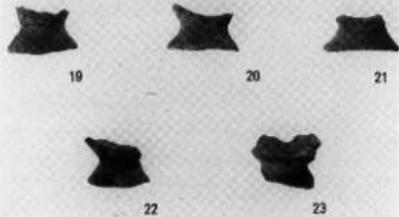
2 SD12 東部（北から）



1 SE 3 (南から)



2 SE 3 完墳 (南から)



S I 1 10 SK 5 19~23 SK 9 32  
SK 13 41 SK 17 49~51・53





87



92



88



94



140



107



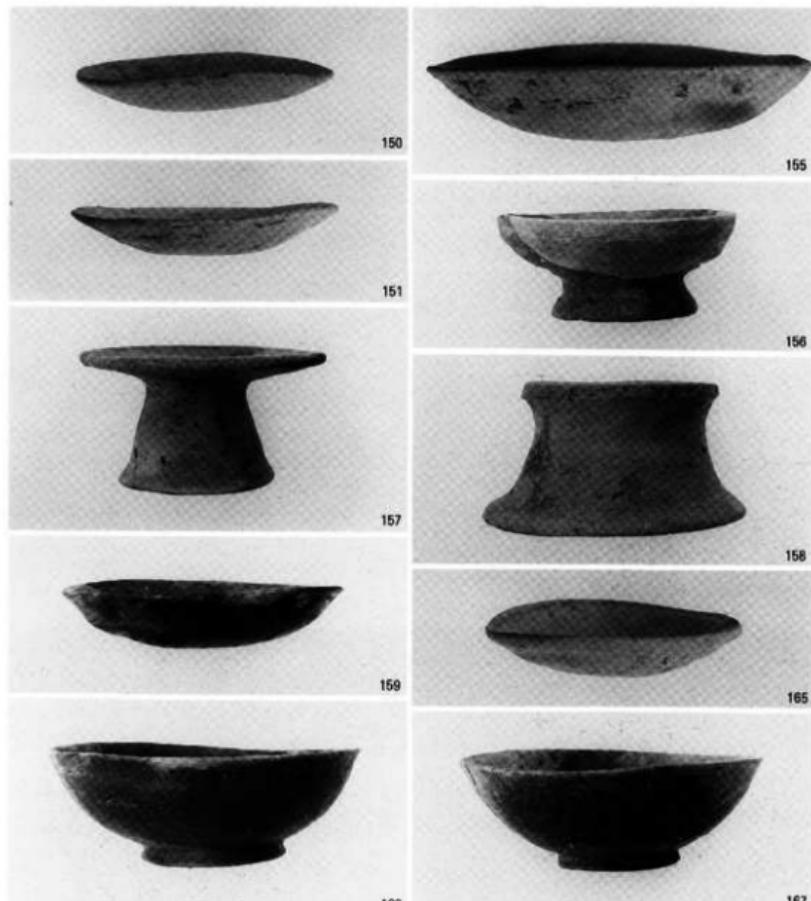
141



137

S D12 87・88・92 S D16 94  
包含層 107・137・140・141

図版二九 第14次調査地



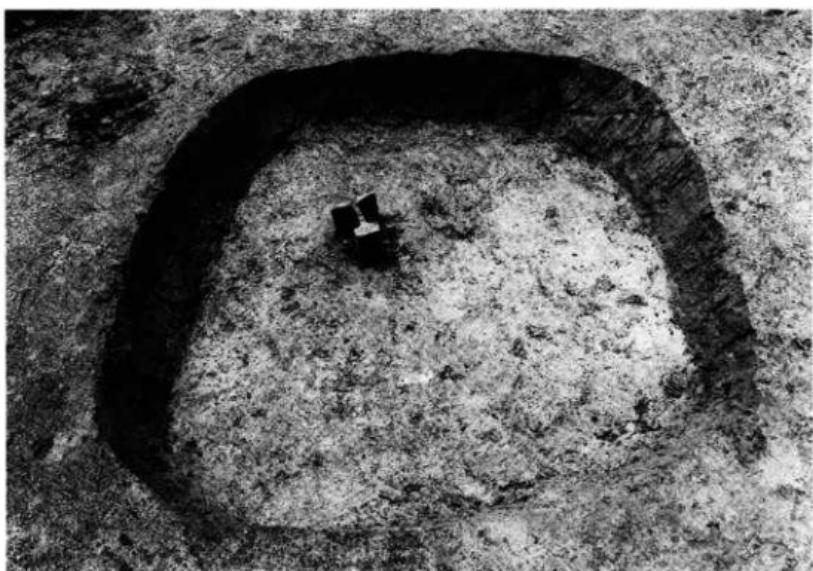
S E 3 150、151、155～159 S P 5 165～167



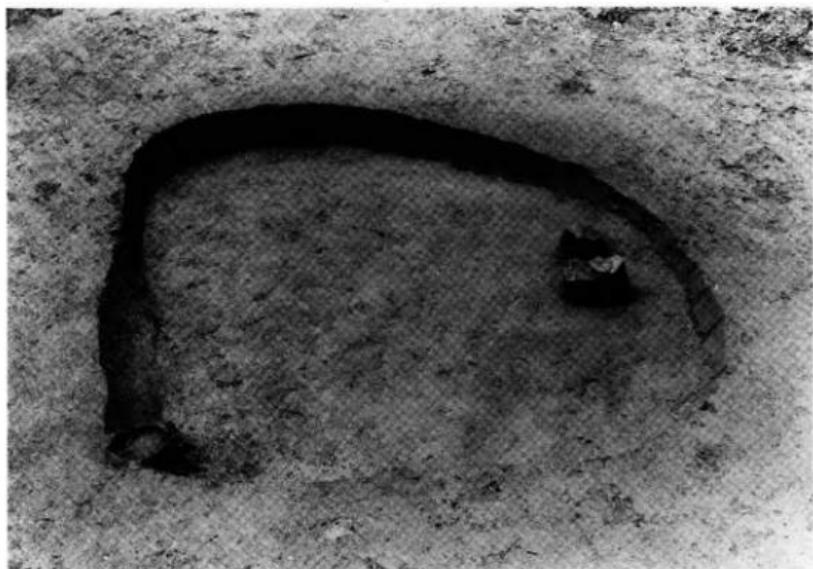
1 第1調査区水田（北から）



2 第2調査区水田（南から）



1 SK 1 (南から)



2 SK 2 (南から)



SK1 1 SK2 2

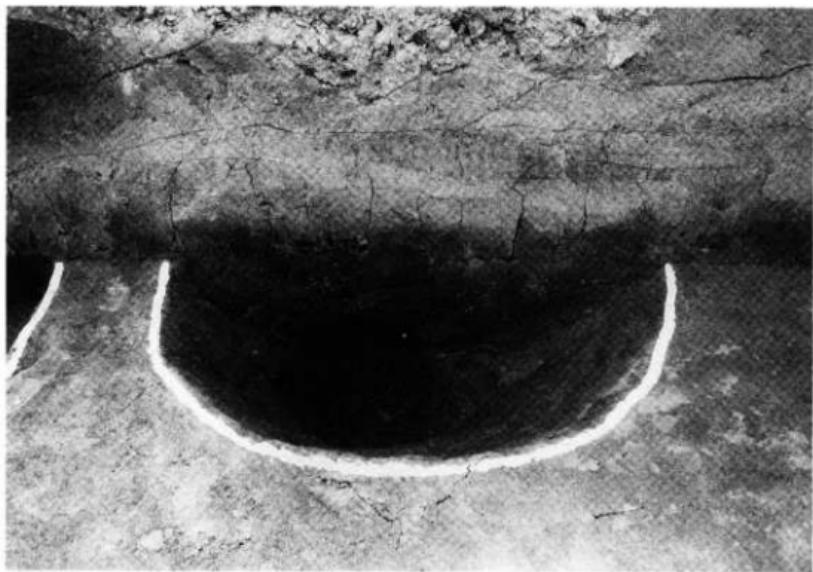
2



1 調査区北部（南から）



2 調査区南部（西から）



1 SK 1 (東から)

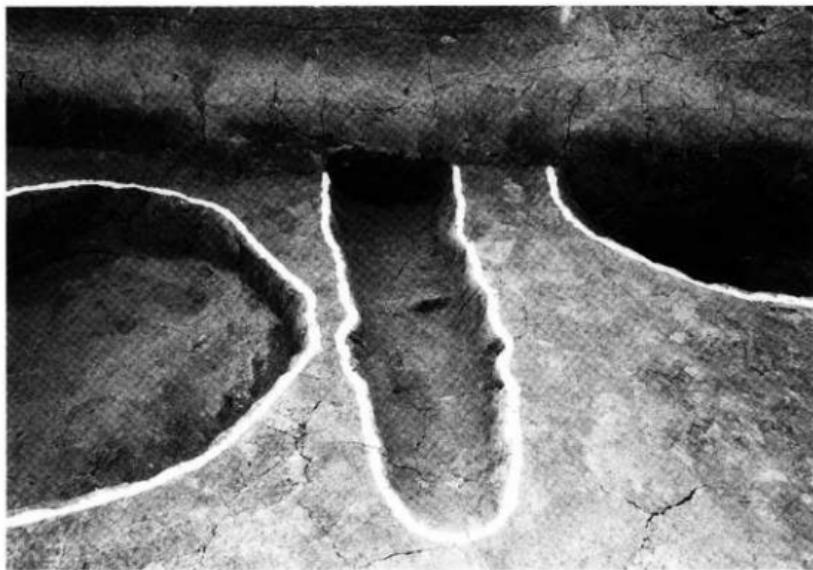


2 SK 5 (東から)

図版三五 第16次調査地



1 SK8・SD4 (東から)



2 SD3 (東から)



18



20



19



24



21

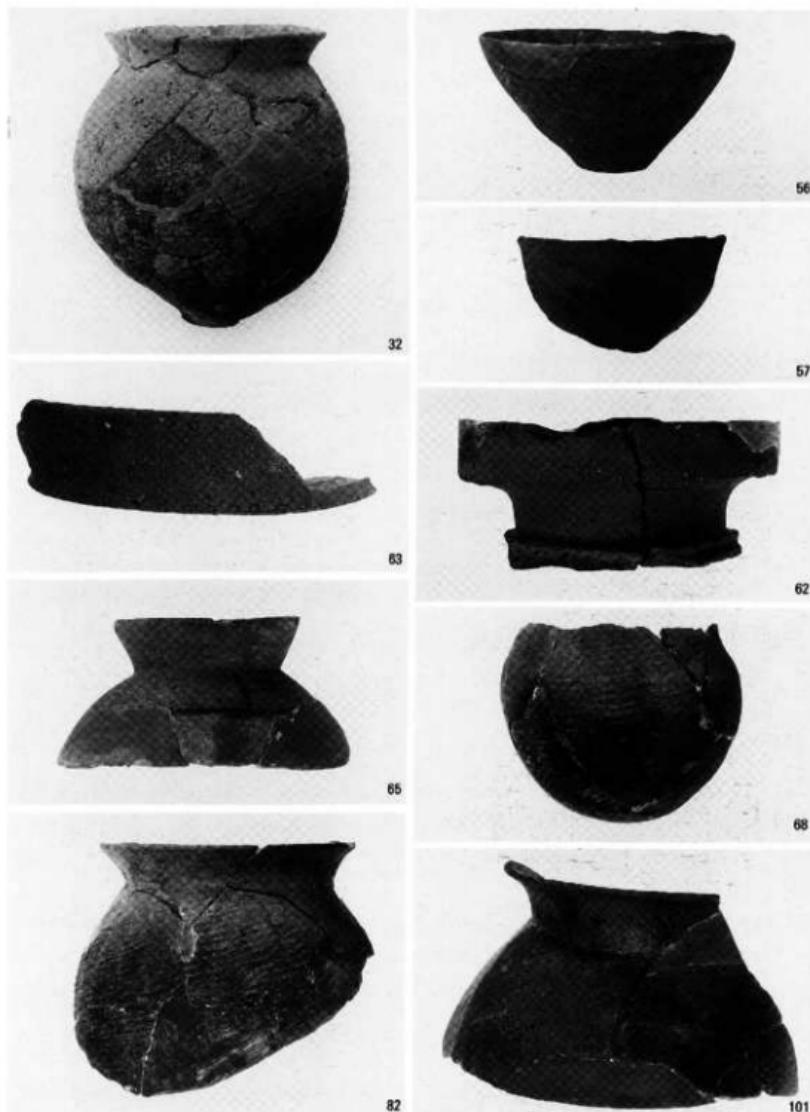


30

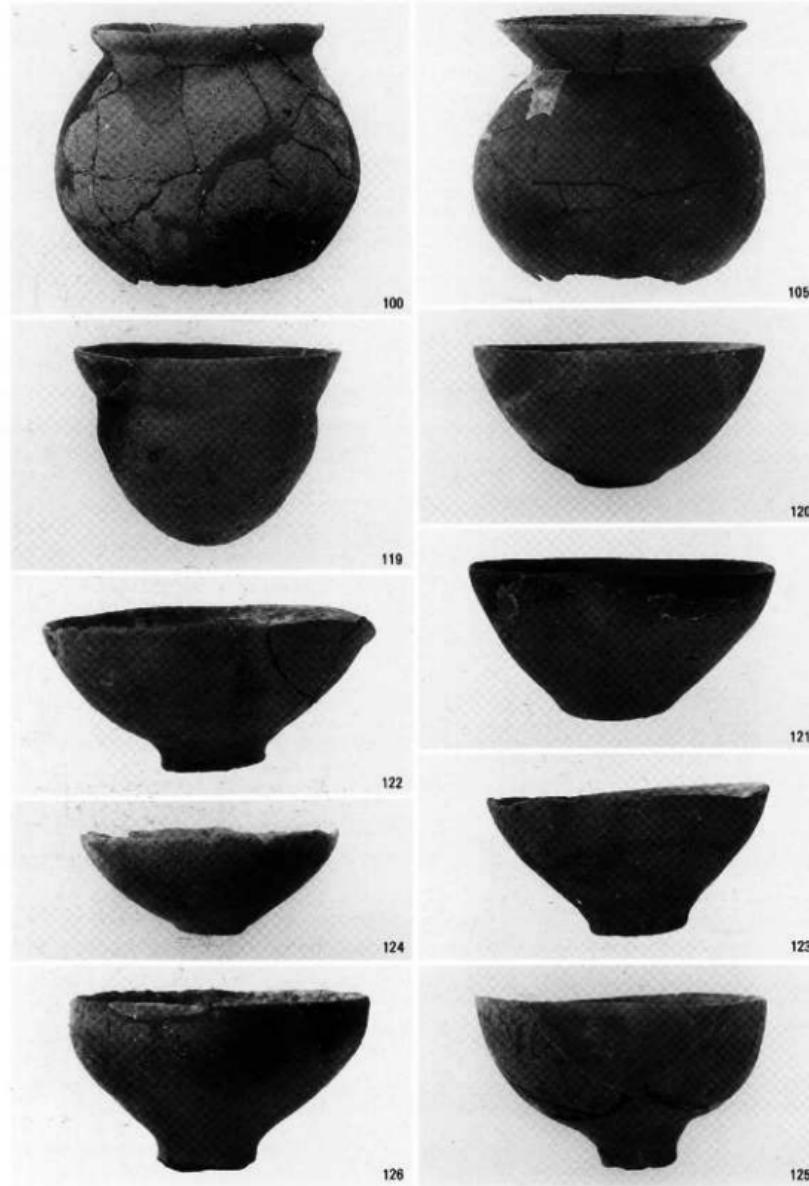


25

SK 5 18~21・24  
SK 6 25 SK 7 30



S K 32 SD 1 56・57  
第4e層 62・63・65・68・82・101





127



128



129



132



133



134



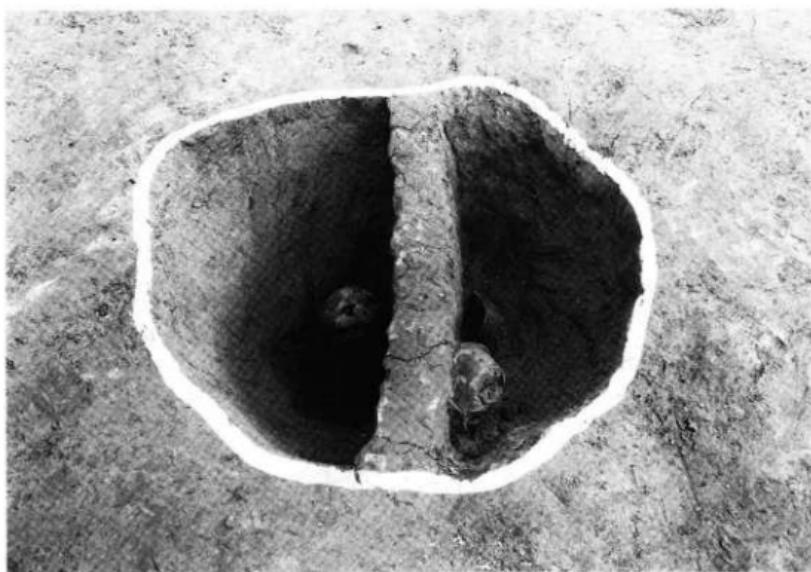
139



1 第1調査区全景（南から）



2 第2調査区全景（南から）



1. S E 1 (北から)



2. S K 2 (南から)



1 SD 1 東部（西から）



2 SD 1 西部（北から）



1



2



5



8



7



13



9

SE1 1・2・5・7 SK1 8  
SK2 9・13



25



30



47



41



50



48



51

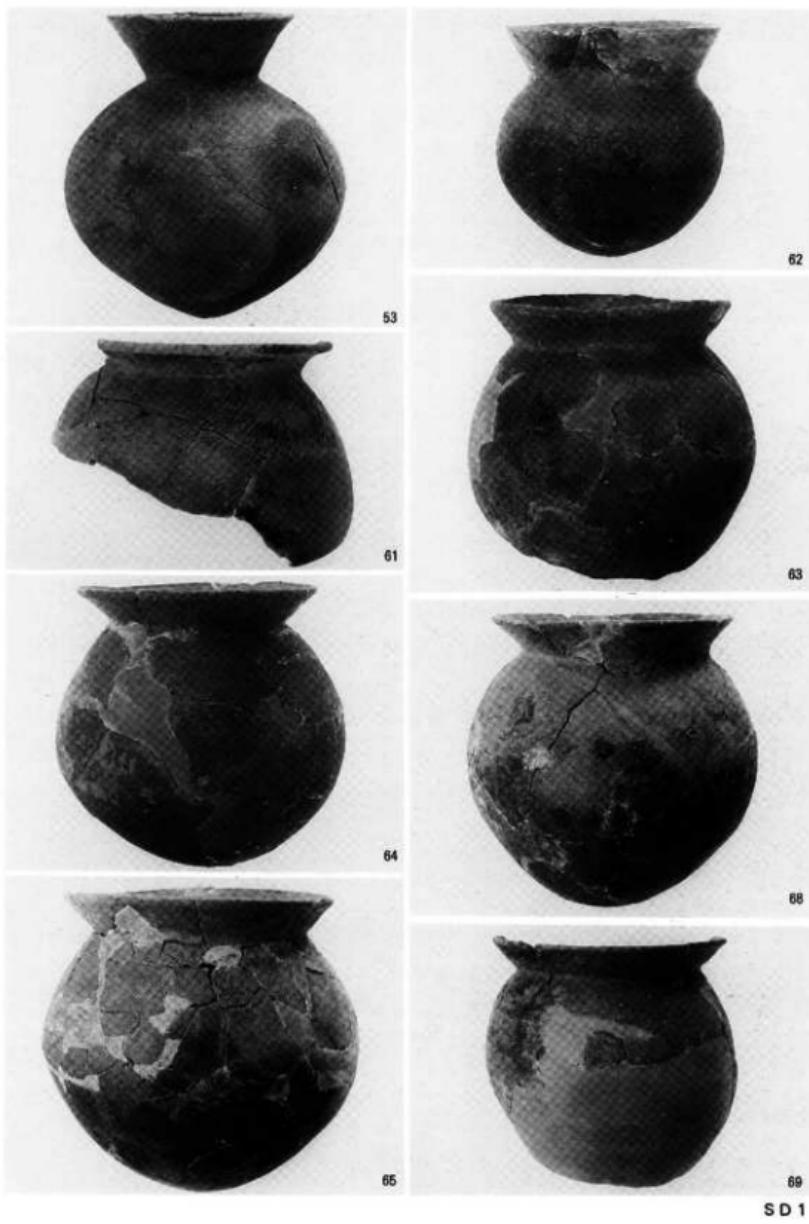


52

SK 2 25・30・41・47・48

SD 1 50～52

圖版四五  
第18次調查地





70



78



77



87



79



102



111



110

SD 1 70・77~79 SD 2 87  
包含層 102・110・111

II 田井中遺跡発掘調査報告  
(第1次・第2次調査)

## 例　　言

1. 本書は、八尾市空港一丁目に所在する陸上自衛隊八尾駐屯地内で、昭和57年度に行った浴場建築工事に伴う田井中遺跡の発掘調査（第1次調査と呼称する）と、昭和59年度に同駐屯地内で行った需品工場建築に伴う同遺跡の発掘調査（第2次調査と呼称する）の報告である。
1. 本書で報告する田井中遺跡の第1次調査、第2次調査は、財団法人八尾市文化財調査研究会が、大阪防衛施設局の委託を受けて実施したものである。
1. 第1次調査の調査期間は、昭和57年8月16日から同年8月26日で、第2次調査は、昭和59年10月15日から同年10月26日である。
1. 現地調査は、西村公助を担当として実施し、第1次調査においては、北尾耕三、中野健太郎、山西嘉彦が、第2次調査においては、麻田優、中野慶太、萩原剛良、森山憲一が参加した。
1. 内業整理は、現地調査終了後、まとめて昭和63年3月31日まで実施した。また内業整理には上記の他、横山妙子、山内千恵子、小林智恵、武田正泰が参加した。
1. 本書の作成に関わる業務は、遺物実測—西村・森山、図面レイアウト—西村、トレース—西村、遺物写真—西村が担当した。
1. 本書の執筆は、主に西村が担当した。

## 凡　　例

1. 実測図の縮尺率は、1:40・1:100・1:5000である。また遺物は、1:2・1:4とした。
1. 遺物実測図は、第1次調査と第2次調査に区別して掲載した。
1. 遺構実測図の方向は全て磁北を示している。

## 本文目次

例言

凡例

|                   |     |
|-------------------|-----|
| 第1章 調査に至る経過.....  | 159 |
| 第2章 地理・歴史的環境..... | 161 |
| 第3章 調査概要.....     | 165 |
| 第1節 基本層序.....     | 165 |
| 第2節 調査経過.....     | 166 |
| 第3節 調査結果.....     | 169 |
| 1 第1次調査.....      | 169 |
| 1) 検出遺構.....      | 169 |
| 2) 出土遺物.....      | 169 |
| 2 第2次調査.....      | 174 |
| 1) 検出遺構.....      | 174 |
| 2) 出土遺物.....      | 177 |
| 第4章 出土遺物観察表.....  | 189 |
| 第5章 まとめ.....      | 211 |

## 挿図目次

|   |         |
|---|---------|
| 第1図 調査地周辺図.....                           | 159     |
| 第2図 基本層序模式図.....                          | 165     |
| 第3図 第1次調査・第2次調査平面図.....                   | 167・168 |
| 第4図 第1次調査第10層出土遺物実測図1.....                | 170     |
| 第5図 第1次調査第10層出土遺物実測図2.....                | 171     |
| 第6図 第1次調査第10層出土遺物実測図3.....                | 172     |
| 第7図 第1次調査第10層出土遺物実測図4.....                | 173     |
| 第8図 第2次調査SK-3・SK-4 平断面図.....              | 174     |
| 第9図 第2次調査SK-1・SK-2・SK-3・SK-4 出土遺物実測図..... | 175     |
| 第10図 第2次調査SK-5 平断面図.....                  | 176     |

|      |                    |     |
|------|--------------------|-----|
| 第11図 | 第2次調査SK-5出土遺物実測図   | 176 |
| 第12図 | 第2次調査第10層出土遺物実測図1  | 179 |
| 第13図 | 第2次調査第10層出土遺物実測図2  | 180 |
| 第14図 | 第2次調査第10層出土遺物実測図3  | 181 |
| 第15図 | 第2次調査第10層出土遺物実測図4  | 182 |
| 第16図 | 第2次調査第10層出土遺物実測図5  | 183 |
| 第17図 | 第2次調査第10層出土遺物実測図6  | 184 |
| 第18図 | 第2次調査第10層出土遺物実測図7  | 185 |
| 第19図 | 第2次調査第10層出土遺物実測図8  | 186 |
| 第20図 | 第2次調査第10層出土遺物実測図9  | 187 |
| 第21図 | 第2次調査第10層出土遺物実測図10 | 188 |

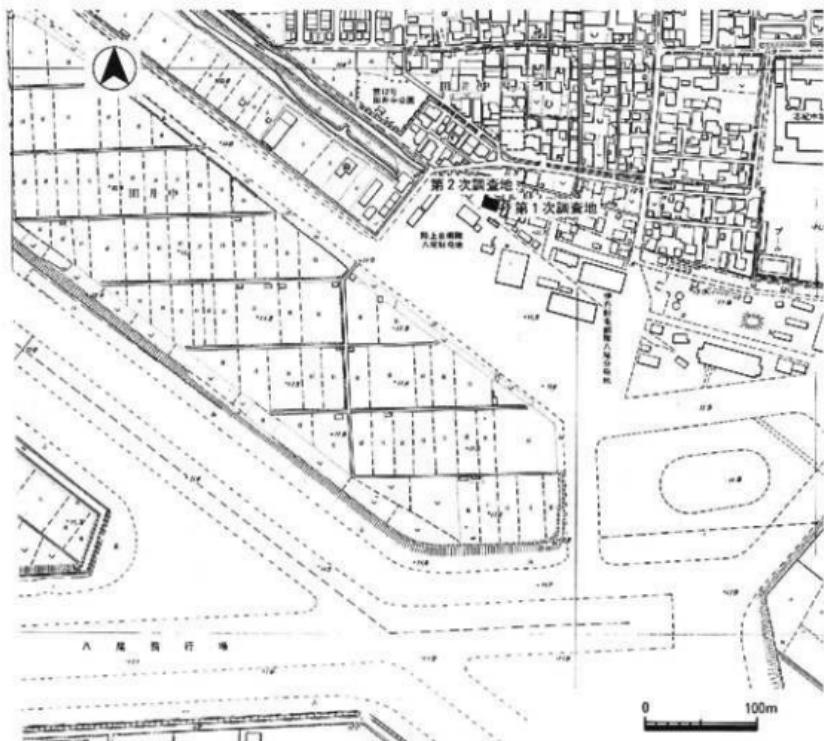
## 図 版 目 次

- 図版 一 第1次調査全景  
　　第2次調査全景
- 図版 二 第2次調査SK-4  
　　同 SK-5
- 図版 三 第1次調査第10層出土遺物
- 図版 四 第1次調査第10層出土遺物
- 図版 五 第1次調査第10層出土遺物
- 図版 六 第1次調査第10層出土遺物
- 図版 七 第2次調査SK-1 (1・4)、SK-3 (11)、SK-4 (12)、SK-5 (15  
～18) 出土遺物
- 図版 八 第2次調査第10層出土遺物
- 図版 九 第2次調査第10層出土遺物
- 図版 ○ 第2次調査第10層出土遺物
- 図版一一 第2次調査第10層出土遺物
- 図版一二 第2次調査第10層出土遺物
- 図版一三 第2次調査第10層出土遺物

## 第1章 調査に至る経過

田井中遺跡は、現在の行政区画の八尾市田井中4丁目を中心として広がっている。当遺跡発見の契機は、昭和50年度に陸上自衛隊八尾駐屯地内での下水工事掘削の際、弥生時代前期の土器が出土したことによる。しかしその工事での遺構埋没深度・出土遺物状況等の詳細は不明であった。その後、同駐屯地内を含めた当遺跡付近では、開発に伴った発掘調査も実施されることもなく現在に至っている。

このような状況の中、昭和57年5月に大阪防衛施設局から八尾市教育委員会文化財室に、同駐屯地内において浴場を建築する旨の通知があった。そこで同市教育委員会では建築予定地が



第1回 調査地周辺図

周知の遺跡範囲にあり、さらに建物の基礎工事によって遺構が破壊されるおそれがあると判断し、工事に先立って発掘調査が必要である旨を同施設局へ告げた。それを受けた同施設局は、現状の計画変更ができないと判断し、その旨を同市教育委員会へ告げた。その結果、同市教育委員会では、発掘調査をせざるを得ないと判断し、同市教育委員会と同施設局と財團法人八尾市文化財調査研究会の三者で協議を行い、同研究会が主体となって昭和57年8月16日から同年9月10日まで発掘調査を行うことに決定した（第1次調査）。なお、調査面積は東西幅4m、南北幅11mの44m<sup>2</sup>であるが、人力掘削途中に湧水が多量にあり壁面が崩壊し、全面にわたる調査は危険な状態になった。しかし、南側の約4m程度が壁面崩壊からまぬがれ、この部分だけを面的に調査することができた。調査の結果、地表下約2.3～2.7m（標高9.2～8.7m）で弥生時代前期から古墳時代中期にかけての遺物が濃密に含まれている層を確認し、また面的に調査を行った部分では、時期不明の小穴1個を検出した。この調査では、多量の湧水があり壁面崩壊があいつぎ、十分な調査を実施する事ができなかった為、今後の調査方法について数多い課題を残した。

さらに昭和59年9月には、同駐屯地内の第1次調査地の西約3m付近で、需品工場を建設する旨の通知が同施設局から同市教育委員会にあった。この通知を受けた同市教育委員会は、昭和57年度調査成果を踏まえた上で発掘調査が必要であると判断し、同施設局にその旨を告げた。それを受けた同施設局では、現状の計画変更ができないと判断し、その旨を同市教育委員会へ告げた。その結果、同市教育委員会では、発掘調査をせざるを得ないと判断し、同市教育委員会と同施設局と同研究会の三者で協議を行い、同研究会が主体となって昭和59年10月15日から同年10月26日まで現地調査を行うことに決定した（第2次調査）。なお、調査面積は東西幅15.5m・南北幅10mの155m<sup>2</sup>である。第2次調査では、第1次調査の結果から、壁面崩壊を防ぐための対策として壁面の勾配を十分に取り掘削作業を行った。

## 第2章 地理・歴史的環境

八尾市は大阪府の東部に位置し、東は奈良県平群郡一郷町、南は松原市・藤井寺・柏原市、西は大阪市、北は東大阪市と接している。八尾市の地形は、生駒山地から西に広がる扇状地が東部地域を占め、西部地域は、抜議の「河内平野」と呼ばれる沖積地から成る。河内平野には、長瀬川・玉串川・平野川をはじめとした大小河川が北または北西流しており、田中遺跡の所在している八尾市田中14丁目・空港1丁目付近は、平野部を流れる前述河川のうちの平野川流域の低湿地にあたる。

当遺跡周辺には、東に弓削遺跡・東弓削遺跡、西に木の本遺跡・八尾南遺跡・長原遺跡、北に老原遺跡・植松遺跡・中田遺跡・小阪合遺跡・矢作遺跡が位置している。以下当遺跡を含めた周辺の遺跡について概観したい。

後期旧石器時代は、地質学的には、ウルム氷期の最盛期から末期の時期にあたる。この時期の当遺跡一帯は、古大阪平野・古河内平野と呼ばれる陸地が広がっていた。<sup>註1</sup>当遺跡の西方の八尾南遺跡や長原遺跡では後期旧石器時代に比定される遺物が出土しており同時代を解明する手がかりを得ている。<sup>註2</sup><sup>註3</sup>

縄文時代草創期、早期の当遺跡周辺は、前時代と変わらない景観であったようである。つづく前期には、気候の温暖によって海平面が上昇し、海岸線が内陸部の奥深く進出し、広い内湾を形成していた（河内湾Ⅰの時代）。この時期の海岸線は、現在の行政区画の八尾市亀井付近にあったことが亀井遺跡の調査でわかっている。<sup>註4</sup>中期から後期にかけては、海水準が低下し、<sup>註5</sup>汀線の後退と共に沖積作用によって土砂の堆積作用が顕著になる時期で（河内湾Ⅱの時代）、今まで海であった場所が陸へと変わっていった。この時期の人々は主に生駒山地西麓や羽曳野丘陵上にあったようで、平野部の当遺跡周辺では、八尾南遺跡・長原遺跡で後期の遺物が出土している程度である。晩期の当遺跡周辺には、後期からつづく長原遺跡があり居住域と墓域が確認されている。また、八尾南遺跡でもこの時期の遺物の出土がある。<sup>註6</sup><sup>註7</sup><sup>註8</sup><sup>註9</sup>

縄文時代晩期から弥生時代前期にかけては、稲を作る技術を導入した人々が平野部の微高地に定住し、平野部の平地に広がっている農耕に適した土壤を耕地として利用していたと思われる。当遺跡周辺では、長原遺跡で前期末の水田が検出されている他、八尾南遺跡でも前期の遺構の検出がある。<sup>註10</sup>また、当遺跡でも前期の新段階の土器が出土している。中期になると、当遺跡周辺には、新たに木の本遺跡・東弓削遺跡・弓削遺跡が出現している。また、当遺跡では畿内第Ⅱ様式の時期の遺構を検出していることから、この時期以降に当地で生活していることが明らかになった。後期には、長原遺跡・八尾南遺跡で居住域と墓域を確認している。また中期

からつづく弓削遺跡では、後期の土器が多量に出土した溝を検出している。この他、新たに註17中田遺跡・小阪合遺跡が出現している。  
註18

弥生時代後期から古墳時代前期〔庄内式期〕にかけても集落の立地はあまり変化がなく、ほぼ同位置に存在していた。周辺には、小阪合遺跡・中田遺跡・東弓削遺跡・八尾南遺跡が存在している。〔庄内式期〕につづく〔布留式期〕には前述の遺跡の他、木の本遺跡が存在している。長原遺跡では、古墳時代前期後半に塚ノ本古墳が築造され、つづく中期にも小形の方墳が約150基程度確認されており、長原古墳群と呼ばれている墓域が広がっていた。中期の集落には、長原遺跡・八尾南遺跡・小阪合遺跡・中田遺跡等がある。特に八尾南遺跡では、掘立柱建物を中核として、初期須恵器や韓式系土器を伴う遺構を検出している。また、当遺跡でもこの時期に比定される土坑を検出している。後期前半になると、主に横穴式石室を主体とした古墳が生駒山地西麓で造営されるようになる。それに反して平野部での古墳造営は減少する傾向にあり、長原古墳群はこの時期で古墳の造営を終えている。当遺跡周辺の後期の遺跡には、老原遺跡・矢作遺跡がある。また当遺跡の北方に隣接している志紀遺跡では、古墳時代中期から後期にかけての水田を検出している。  
註34

奈良時代には、当遺跡は河内国の志紀郡に属していた。同郡内での奈良時代の遺跡には、弓削遺跡がある。また当遺跡の北方の若江郡内には東弓削遺跡・小阪合遺跡が、北西方の波川郡には太子堂遺跡がある。中でも東弓削遺跡が所在する八尾市八尾木付近一帯は、奈良時代後期において西の京がおかれたと推定されている地域で、当遺跡一帯は河内国の中において中心的な地域であったことがうかがえる。

平安時代には、長原遺跡で条里に合致させた耕作地や屋敷地が検出されており。この他、木の本遺跡でもこの時期の遺構が検出されている。また平安時代後期から鎌倉時代初期にかけては、小阪合遺跡・木の本遺跡・長原遺跡等で集落が検出されている。  
註40  
註41  
註42  
註43

鎌倉時代以降も当遺跡の付近は、前時代とほぼ同じ景観であった。鎌倉時代の当遺跡周辺には、老原遺跡が所在している。室町時代の当遺跡周辺では、遺跡としての存在は未だ確認されていない。  
註45

江戸時代になると、前期の宝永元年には大和川の付け替えが行なわれ、人和川は石川との合流点より西へ流れることになり、以後、大和川の氾濫による水害も減少し、註46大和川の河川敷は主に耕地として利用されるようになった。木の本遺跡では、大和川付け替え以降の新田開発に伴う耕地区画として開掘された溝を検出している。

- 註1 大阪府『大阪府史』第1巻 古代編
- 註2 八尾南遺跡調査会『八尾南遺跡』一大阪高速電気軌道2号線建設に伴う発掘調査報告書 1981
- 註3 (財)大阪市文化財協会『長原遺跡発掘調査報告』一大阪市高速電気軌道第2号線延長工事に伴う発掘調査報告書 1982
- 註4 市原寅・尾山彦太郎著「大阪平野の発掘史」『地質学論集』7 1972
- 註5 (財)大阪文化財センター『龜井・城山一寝屋川南部流域下水道事業ポンプ場築造工事関連埋蔵文化財発掘調査報告書』1980
- 註6 前掲書註2
- 註7 財團法人 大阪市文化財協会『長原遺跡発掘調査報告』一大阪市交通局地下鉄谷町線延長工事第31・32丁区の発掘調査 1982
- 註8 前掲書註3
- 註9 前掲書註2
- 註10 (財)大阪市文化財協会『免職された大阪』 1984
- 註11 前掲書註2
- 註12 (財)八尾市文化財調査研究会『木の本遺跡発掘調査概要報告』『八尾市埋蔵文化財発掘調査概報』1980・1981年度 (財)八尾市文化財調査研究会報告2 1983
- 註13 八尾市教育委員会『東弓削遺跡』大阪府水道部送水管布設工事に伴う埋蔵文化財調査 八尾市文化財調査報告3 1976
- 註14 (財)八尾市文化財調査研究会『弓削遺跡(第1次調査)』『昭和59年度事業概要報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告7 1985
- 註15 前掲書註7
- 註16 前掲書註2  
(財)八尾市文化財調査研究会『3 八尾南遺跡』『昭和58年度事業概要報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告5 1984
- 註17 前掲書註14
- 註18 八尾市教育委員会『中田遺跡』日本電信電話公社大阪東地区管理部地下埋設工事に伴う調査 中田遺跡調査報告1 1974
- 註19 (財)八尾市文化財調査研究会『小阪合遺跡』一八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査- <昭和57年度 第1次調査報告書> (財)八尾市文化財調査研究会報告11 1987  
(財)八尾市文化財調査研究会『小阪合遺跡』一八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査- <昭和58年度 第2・3次調査報告書> (財)八尾市文化財調査研究会報告12 1987
- 註20 前掲書註19
- 註21 前掲書註18
- 註22 前掲書註13
- 註23 前掲書註2
- 註24 (財)八尾市文化財調査研究会『1 木の本遺跡』『昭和58年度事業概要報告』  
(財)八尾市文化財調査研究会報告5 1984年
- 註25 大阪府教育委員会 財團法人 大阪文化財センター『長原』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書 1978
- 註26 前掲書註10
- 註27 前掲書註3
- 註28 前掲書註2  
(財)八尾市文化財調査研究会『II 八尾南遺跡発掘調査概要報告』『八尾市埋蔵文化財発掘

- 調査概要』昭和59年度 (財)八尾市文化財調査研究会報告 6 1985
- 註29 前掲書註19
- 註30 前掲書註18
- 註31 前掲書註28
- 註32 (財)八尾市文化財調査研究会「老原遺跡発掘調査概要報告『八尾市埋蔵文化財発掘調査概報』1980・1981年度 (財)八尾市文化財調査研究会報告 2 1983
- 註33 八尾市教育委員会「矢作遺跡発掘調査概要』『八尾市内遺跡昭和61年度発掘調査報告書Ⅱ』八尾市文化財調査報告 15 1987
- 註34 大阪府教育委員会 昭和58年度・昭和60年度改調査
- 註35 前掲書註14
- 註36 前掲書註13
- 註37 前掲書註19
- 註38 (財)八尾市文化財調査研究会「太子堂遺跡『昭和58年度事業概要報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告 5 1984
- 註39 前掲書註13
- 註40 前掲書註3
- 註41 財団法人 八尾市文化財調査研究会「1 木の本遺跡」『昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査』その成果と概要 1983
- 註42 (財)八尾市文化財調査研究会『小阪台遺跡発掘調査報告』一流域下水道整備に伴う発掘調査—(財)八尾市文化財調査研究会報告 8 1986
- 註43 (財)八尾市文化財調査研究会『木の本遺跡』一八尾空港整備事業に伴う発掘調査—(財)八尾市文化財調査研究会報告 4 1984
- 註44 前掲書註25
- 註45 前掲書註32
- 註46 前掲書註43

# 第3章 調査概要

## 第1節 基本層序

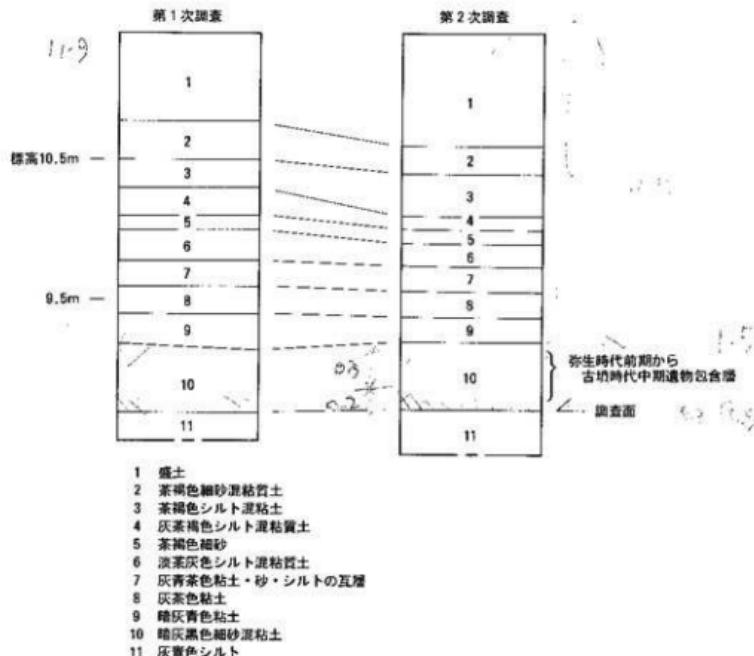
1次調査と第2次調査の層序は、層相に若干の違いがあるものの、ほぼ同じ層序であった。

第1層：盛土。層厚0.8~1.0m。現地表面の標高は11.2m前後を測る。

第2層：茶褐色細砂混粘質土。層厚0.2~0.3m。全域に渡って普遍的に認められる。

第3層：茶褐色シルト混粘土。層厚0.2~0.3m。全域に渡って普遍的に認められる。

第4層：灰茶褐色シルト混粘質土。層厚0.1~0.5m。東に行くに従って層が厚くなっており、第1次調査では土質がシルト質から砂質に変化している。



第2回 基本層序模式図

第5層：茶褐色細砂。層厚0.1～0.4m。層中には鎌倉時代と思われる瓦器の小破片を含んでいた。出土量は希少である。洪水に起因すると思われる層である。東に行くに従って層が厚くなっている。

第6層：淡茶灰色シルト混粘質土。層厚0.1～0.2m。第1次調査では砂質に変化している。

第7層：灰青茶色の粘土・砂・シルトの互層。層厚0.1～0.3m。

第8層：灰茶色粘土。層厚0.18～0.25m。粘性は強い。

第9層：暗灰青色粘土。層厚0.1～0.18m。シルトを若干含んでいる。

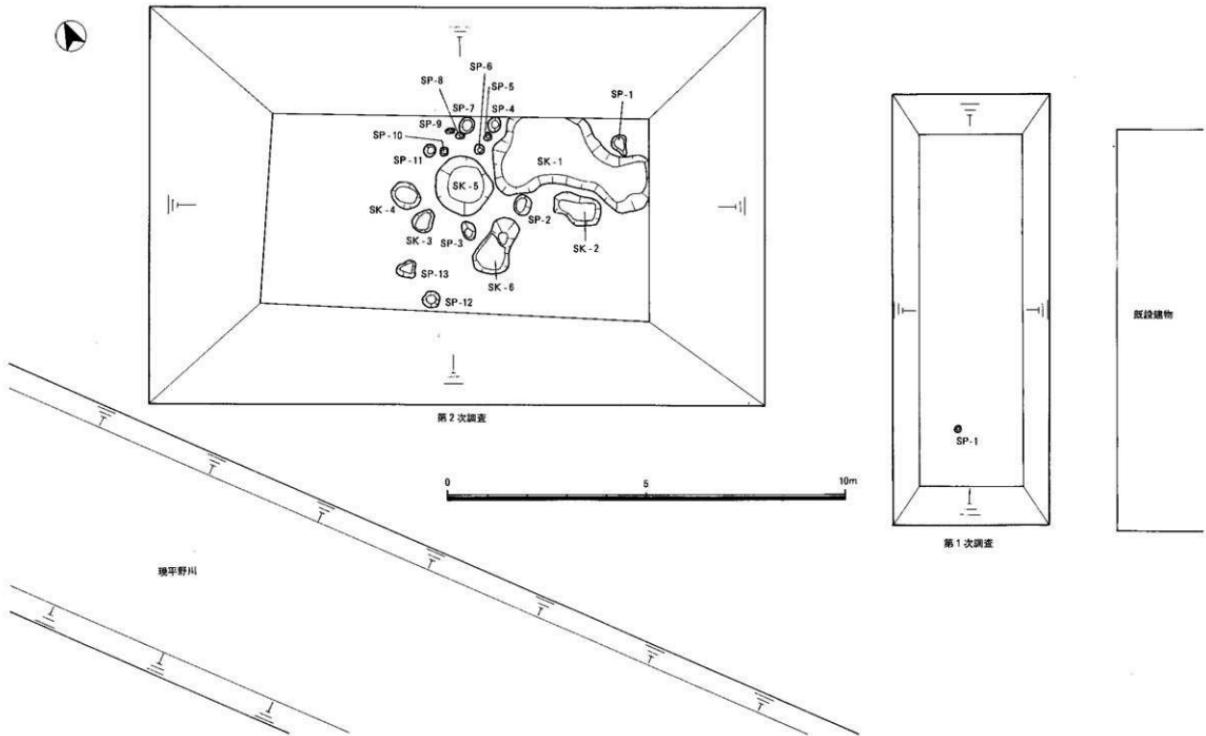
第10層：暗灰黑色細砂混粘土。層厚0.4～0.5m。層中には弥生時代前期から古墳時代中期に至る遺物を多量に含んでいる。

第11層：灰青色シルト。層厚0.3m以上。この層の上面が調査面である。上面の標高は8.7mである。第1次調査では、時期不明の遺構を、第2次調査では弥生時代中期と古墳時代中期と時期不明の遺構を検出している。

## 第2節 調査経過

第1次調査は浴場を建築する予定地で、東西幅4m、南北幅11mを測る。この調査では遺構深度が明確でない為、1層ごとに慎重に掘削を行った。その結果、第1層～第4層（表土下約1.5m）は無遺物土層である為機械で掘削した。以下の各層については1層ごとに人力で掘削した。この調査では、人力での掘削を行っている途中、湧水が多量にあり、東・西側面の崩壊があいつぎ、全面にわたる調査を行うことは危険な状態になった。しかし、南側の約4m程度は面的に調査することができた。その結果、表土下約2.4～2.7m付近で弥生時代前期から古墳時代中期に至る遺物を含む土層（第10層）を確認し、直下の第11層上面では時期不明の小穴1個を検出した。遺物の出土量はコンテナ箱3箱である。

第2次調査は需品整備工場を建築する予定地で、東西幅15.5m、南北幅10mを測る。この調査では、第1次調査の結果から壁面の崩壊のおそれがあると判断し、崩壊を防ぐ為の対策として壁面の勾配をゆるくする方法を行った。調査の結果、第1次調査と同様、弥生時代前期から古墳時代中期に至る遺物を含む層（第10層）を確認した。直下の第11層上面では、弥生時代中期の土坑4基、古墳時代中期の土坑1基、時期不明の土坑1基、小穴13個を検出した。遺物の総量はコンテナ箱15箱である。



第3図 第1次調査・第2次調査平面図

### 第3節 調査結果

#### 1 第1次調査

調査の結果、表土下約2.7m（標高8.5m）付近の第II層上面で時期不明の小穴1個（SP-1）を検出した。

##### 1) 検出遺構

###### 小穴（SP）

###### SP-1

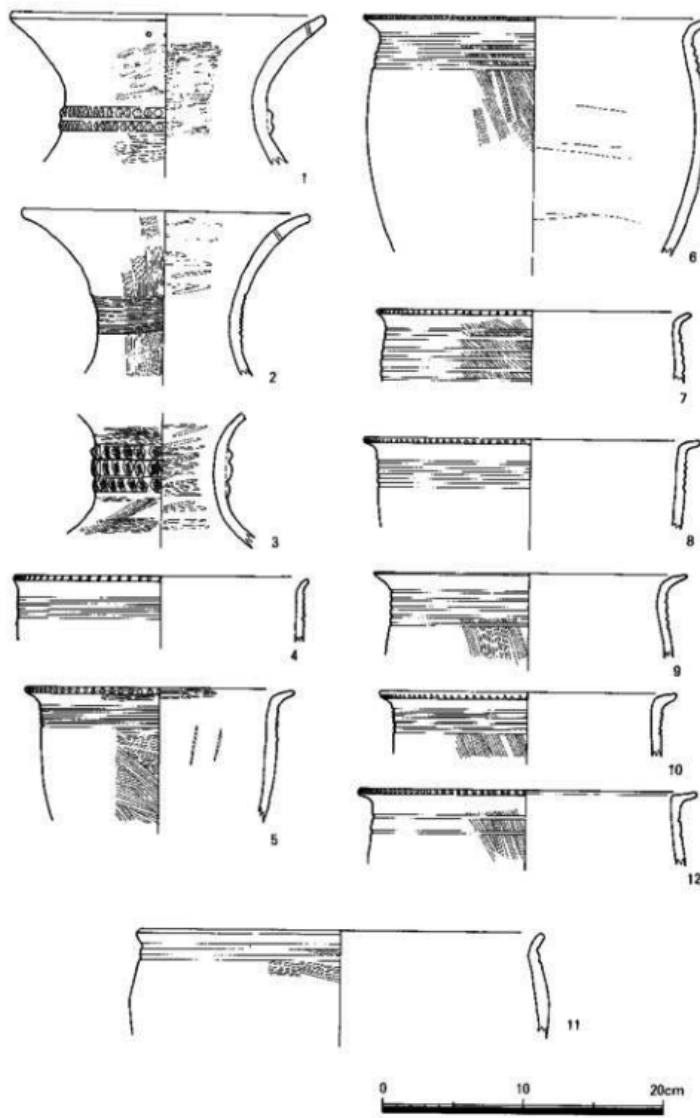
調査区の南側で検出した小穴で、平面の形状は円形を呈する。径0.18m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は黒灰色粘土である。遺物の出土は認められなかった。

##### 2) 出土遺物

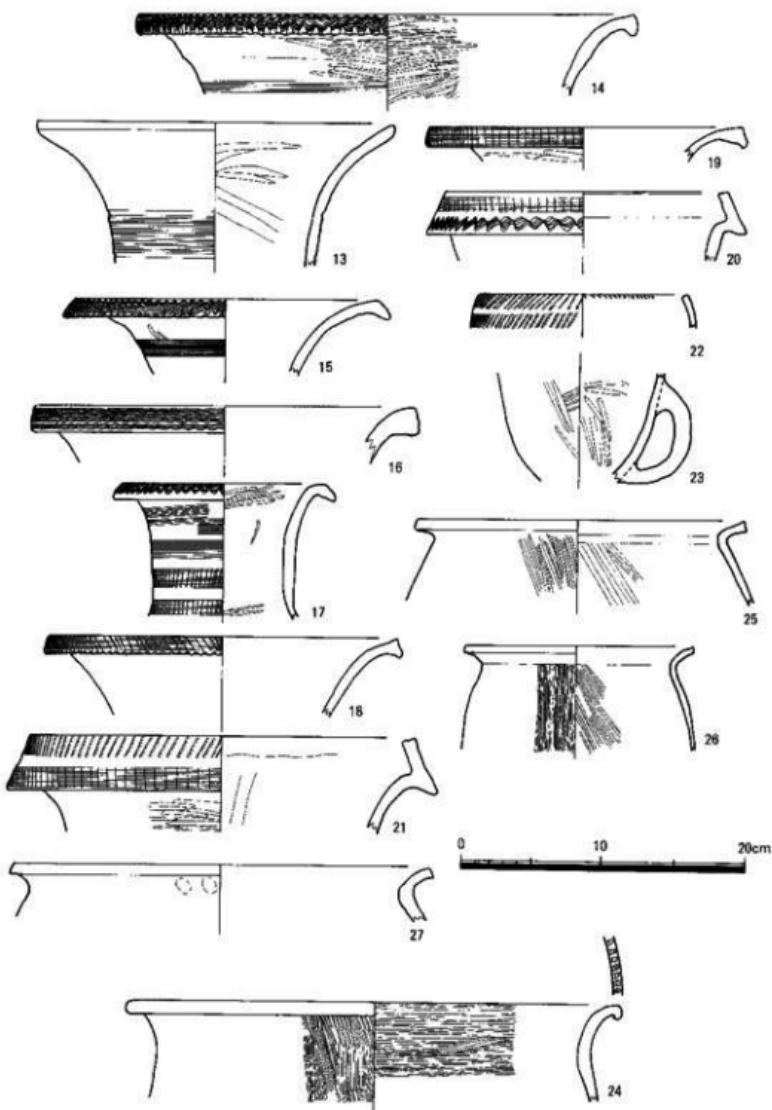
遺物は、遺構面上の第10層暗黒灰色細砂混粘土層から出土している。出土した遺物は弥生時代前期から古墳時代中期に至るもので、時期的には、弥生時代前期から弥生時代中期初頭にかけての遺物が比較的多く出土している。

弥生時代前期の土器には、壺（1～3）、甕（4～12）があり、いずれも畿内第I様式新段階に属するものである。（1）は頸部の貼り付け突带上に刻み目を施す。（2）は沈線文を施す。（3）は貼り付け突带上に布田庄痕がある。（1・2）は縫孔をもつ。（4～12）は頸部に沈線文を施し、（4～8・10・12）は口縁端部に刻み目を施す。弥生時代中期の土器には、壺（13～22）、把手付鉢（23）、甕（24～27）、壺と思われる底部（28～32）、甕と思われる底部（33～38）がある。（13・16）は第II様式、（14・15・17～22）は第III様式に属するものである。（13）は頸部に籠櫛併用紋を施しており、第II様式の中でも前半期の特徴といえよう。<sup>註2</sup>

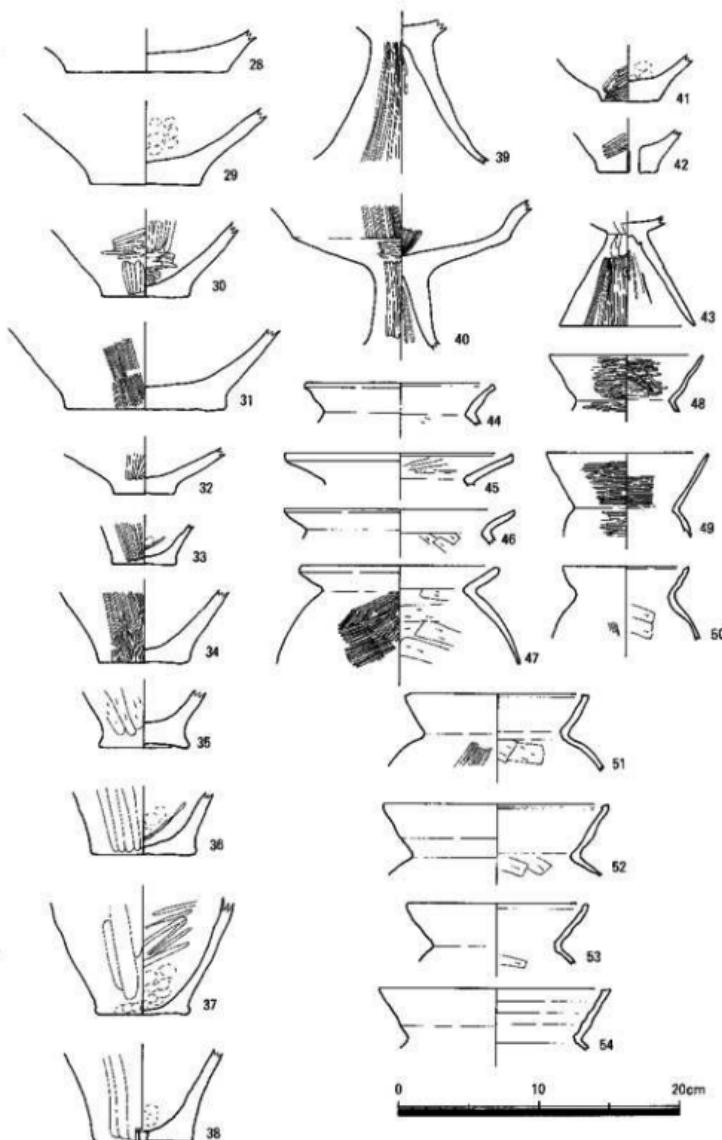
（20・21）は、受口状口縁の壺である。（22）は細頸壺である。（24）は、口縁部内面には横方向、外面には全体に縱方向の粗いハケ目調整が施される「大和型」の甕である。（38）は底面に孔を有する。弥生時代後期の土器は、高杯（39・40）、甕（41・42）がある。（41・42）は外面上にタタキ凹を施している。（42）は底面に孔を有する。古墳時代前期〔庄内式期〕の土器には、器台（43）、甕（44～47）がある。古墳時代前期〔布留式期〕の土器には、小型丸底壺（48～50）、甕（51～54）がある。この他、石鎌（55・56）、石槍（57）、石錐（58）、石龜丁（59）等の石製品が出土している。



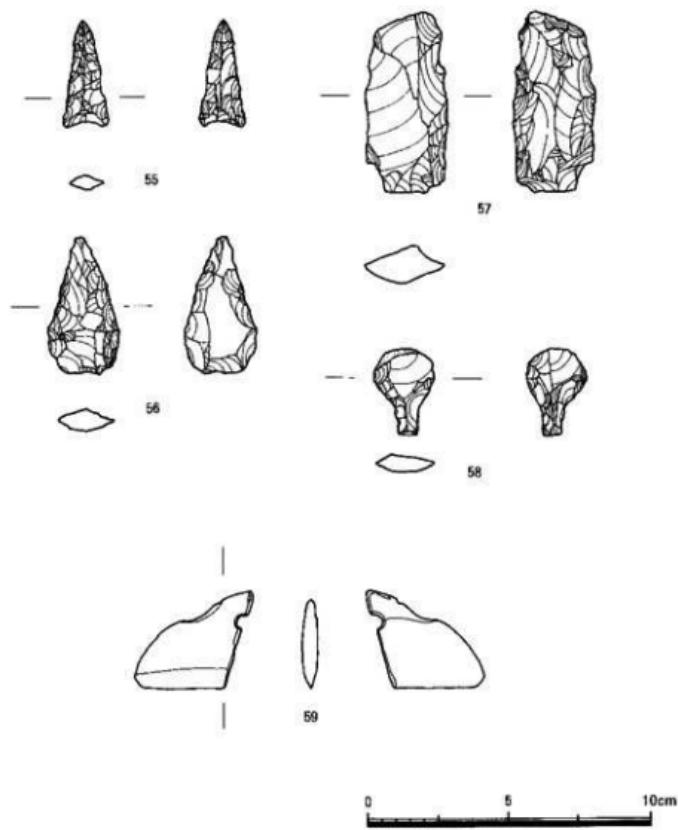
第4図 第1次調査第10層出土遺物実測図1



第5図 第1次調査第10層出土遺物実測図2



第6図 第1次調査第10層出土遺物実測図3



第7図 第1次調査第10房出土遺物実測図4

## 2 第2次調査

調査の結果、表土下約2.7m（標高8.5m）付近の第11層上面で弥生時代中期の土杭4基（SK-1～SK-4）、古墳時代中期の土坑1基（SK-5）、時期不明の土坑1基（SK-6）、小穴13個（SP-1～SP-13）を検出した。出土遺物は、遺構内および主に第10層包含層からで、総量はコンテナ箱に15箱程度である。

### 1) 検出遺構

#### 弥生時代中期の遺構

##### 土坑（SK）

###### SK-1

調査区の北東部で検出した土坑で、東と北は調査区外に至るため全体の形状は不明である。検出部の形状は不定形である。断面の形状は浅いU字形を呈する。検出部の東西幅4.0m、南北幅1.6m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は、黒灰色細砂混粘土である。土坑内からは、第II様式から第III様式の土器（1～8）が出土している。（1・2）は壺、（3～6）は甕、（7）は甕の底部、（8）は壺の底部である。

###### SK-2

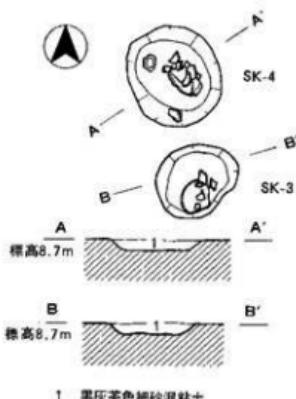
SK-1の南側で検出した土坑で、平面の形状は東西方向に長い楕円形である。断面の形状はU字形を呈する。東西幅1.2m、南北幅0.8m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は、黒灰茶色細砂混粘土である。土坑内からは、第II様式と思われる壺（9）と壺の底部（10）が出土している。

###### SK-3

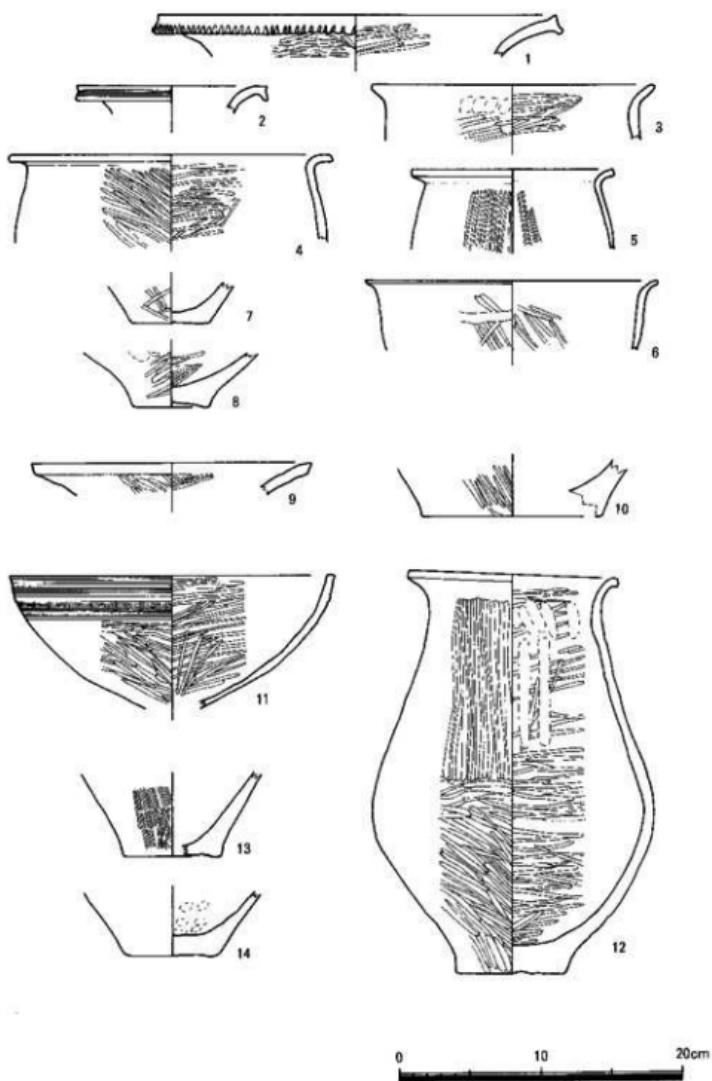
調査区ほぼ中央で検出した土坑で、平面の形状は東西方向に長い楕円形である。断面の形状は逆台形を呈する。東西幅0.6m、南北幅0.5m、深さ0.07mを測る。内部堆積土は、黒灰茶色細砂混粘土である。土坑内からは、第II様式の鉢（11）が出土している。

###### SK-4

SK-3の北側で検出した土坑で、平面の形状は南北方向に長い楕円形である。断面の形状は逆台形を呈する。東西幅0.6m、南北幅0.7m、深さ0.07mを測る。内部堆積土は、黒灰茶色細砂混粘土である。土坑内からは、第II様式の壺（12）、



第8図 第2次調査SK-3・SK-4平面図



第9図 第2次調査SK-1・SK-2・SK-3・SK-4出土遺物実測図

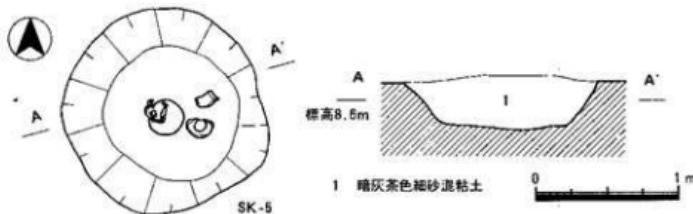
壺の底部と思われるもの（13・14）が出土している。

古墳時代中期の遺構

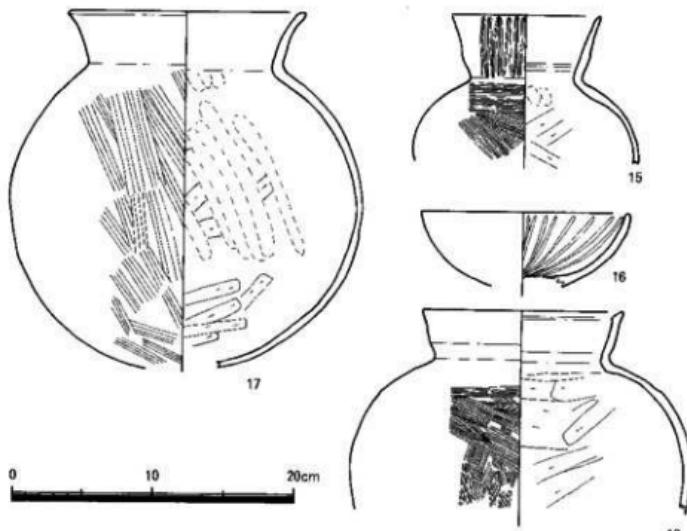
土坑（SK）

SK-5

調査区ほぼ中央部で検出した土坑で、平面の形状は円形である。断面の形状は逆台形を呈する。径1.5m、深さ0.4mを測る。内部堆積土は、暗灰茶色細砂混粘土である。土坑内からは、七輪器の壺（15）・高杯（16）・甕（17・18）と木片が出上している。



第10図 第2次調査SK-5平面図



第11図 第2次調査SK-5出土遺物実測図

### 時期不明の遺構

#### 土坑（SK）

##### SK-6

SK-1の南側で検出した土坑で、平面の形状は、東西方向に長い楕円形であり、東側はくぼみをもつ。断面の形状はU字形を呈する。東西幅0.6m、南北幅1.3m、深さ0.25mを測る。内部堆積土は、黒灰茶色細砂混粘土である。土坑内からの遺物の出土はなかった。

#### 小穴（SP）

##### SP-1～SP-13

SP-1～SP-13は調査区中央および東側で検出した小穴である。平面の形状は円形のもの（SP-4～SP-7・SP-10・SP-12）と、楕円形のもの（SP-1～SP-3・SP-8・SP-9・SP-13）がある。径0.15m～0.45m、深さ0.04m～0.27mを測る。内部堆積土は黒灰色粘土である。小穴内からの遺物の出土はなかった。

### 2) 出土遺物

遺物は、各遺構および遺構面上の第10層暗灰黒色細砂混粘土層から出土している。出土した遺物は弥生時代前期から古墳時代中期に至るもので、時期的には、弥生時代前期から弥生時代中期初頭にかけての遺物が多く出土している。

弥生時代前期の七器には、壺（19～27）、甌（28～30）があり、いずれも第Ⅰ様式新段階に属するものである。（19・20・24・25）は頸部の削り出し突带上に沈線文を施す。（26）は体部上半に沈線、（27）は貼り付け凸带上に刻み目を施す。弥生時代中期の土器には、壺（31～56）、鉢（57～63）、高杯（64～66）、甌（67～82）、壺と思われる底部（83～96）、甌と思われる底部（97～109）がある。（31～42）は第Ⅱ様式、（43～56）は第Ⅲ様式に属するものである。（33・34）は口縁端面に横描の直線文の上に縦方向の短線を施し、（35）は竈による横方向の沈線の上に縦方向の短線を施す。（36）は口縁端面の上下方に刻み目を施し、端面に直線文を施す。（37）は口縁部内面に扇形文を施す。（57・58・61・62）は第Ⅱ様式、（59・60・63）は第Ⅲ様式に属するものである。（64～66）は第Ⅲ様式に属するものである。（67・68・69・72・73）は第Ⅱ様式、（70・71・74～82）は第Ⅲ様式に属するものである。（69）は口縁部内面には横方向、外面には全体に縦方向の粗いハケ目調整が施される「大和型」の甌である。弥生時代後期のものには、壺（110～113）、高杯（114）、甌（115）がある。また、土製円板（120）と体部外面に籠目の痕跡がある鉢（130）の出土があり、これらも弥生時代のものと思われる。古墳時代前期〔庄内式期〕のものには、高杯（116）、甌（117・118）がある。古墳時代前期〔布留式期〕のものには、壺（119・120）、鉢（121）、高杯（122～125）、甌（126・127）がある。古墳時代後期のものには、杯蓋（128）がある。この他、石鐵（131）

～133)、石槍(134)、石錐(135)、石核(136・137)、石庖丁(138・139)等の石器が出土している。

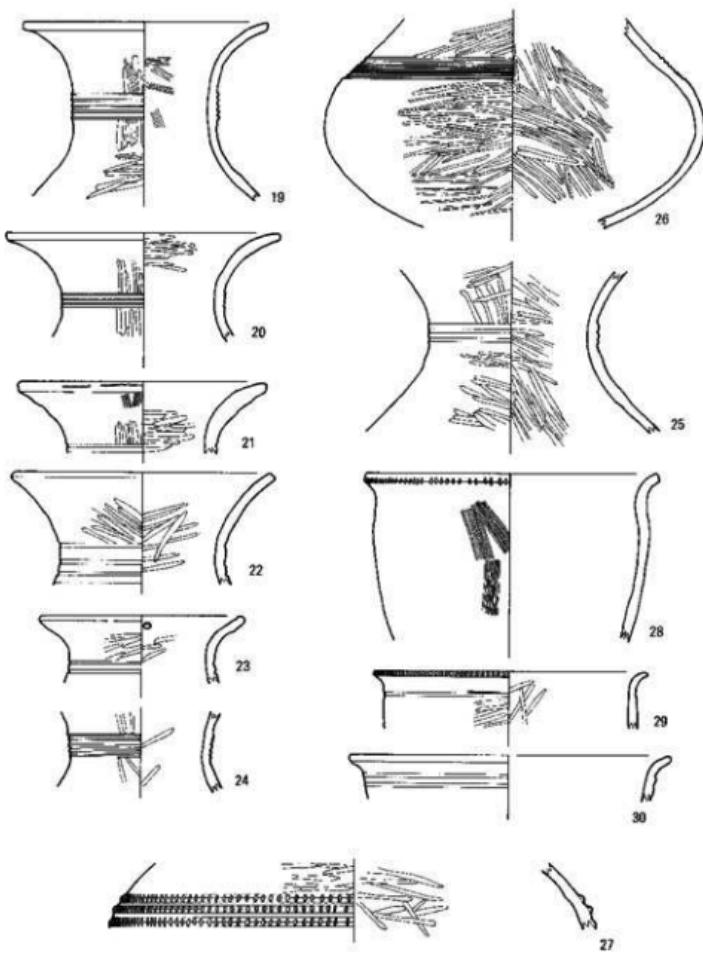
註1 弥生土器については「畿内地方 弥生土器集成」佐原貴編にもとづいて記述した。

註2 大阪文化財センター『池上遺跡 第2分冊 上巻編』1979 P32

註3 瓜生堂遺跡調査会『忍智遺跡I』(本文編) 1980 P67 Fig38-5 第II様式の古段階の十器であるとされている。

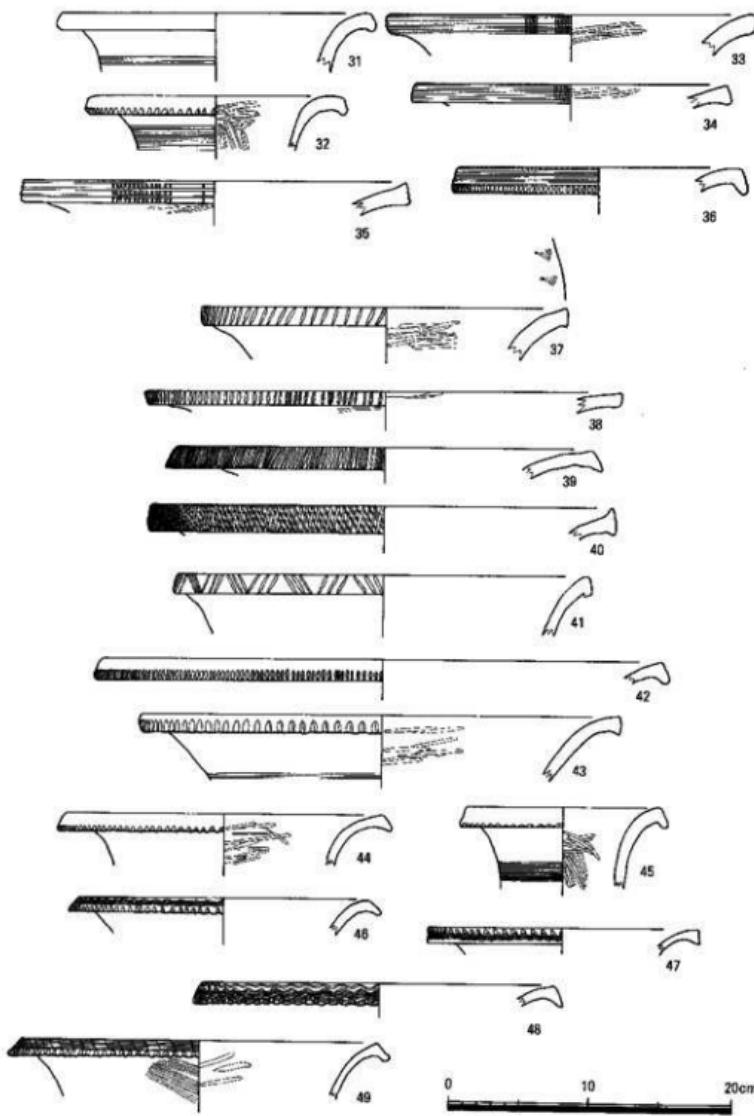
註4 大阪文化財センター『美園』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 1985 P480第420図第II様式壺口縁端部文様605に似ている。

註5 磯原考古学研究所編『御向』東田地区・北溝(北部)下凹出土の壺(P216、第68図27)の体部下半に羅目の痕跡があり、これに類似している。

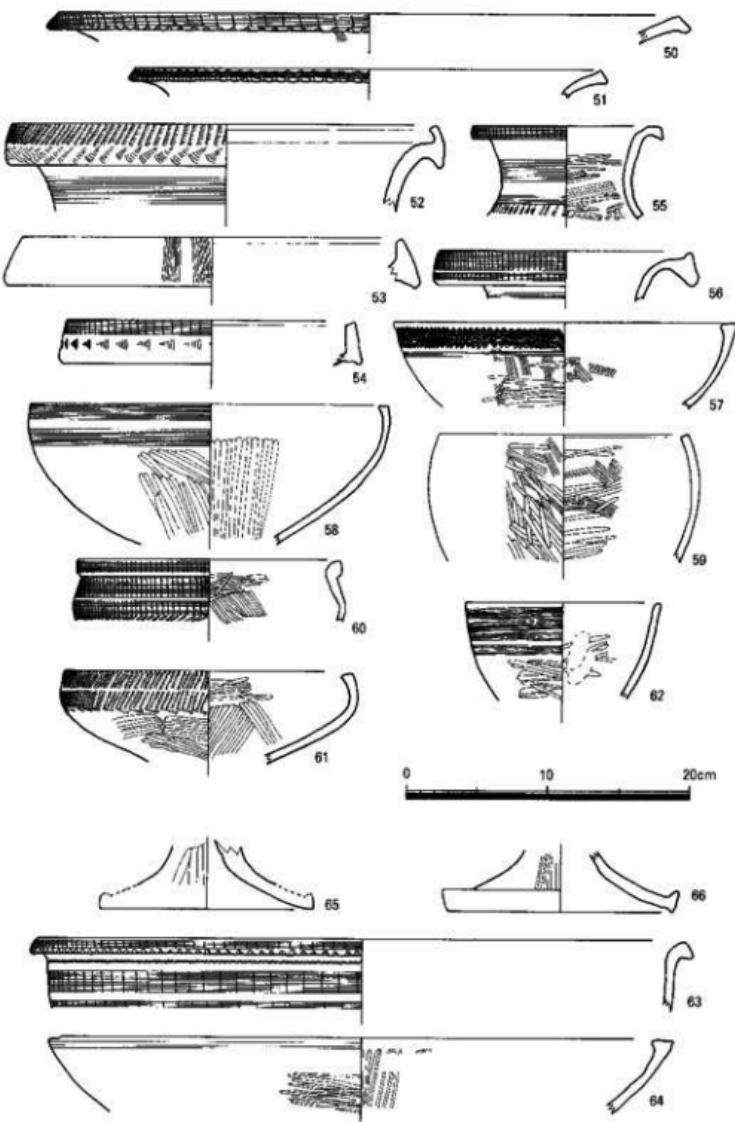


0 10 20cm

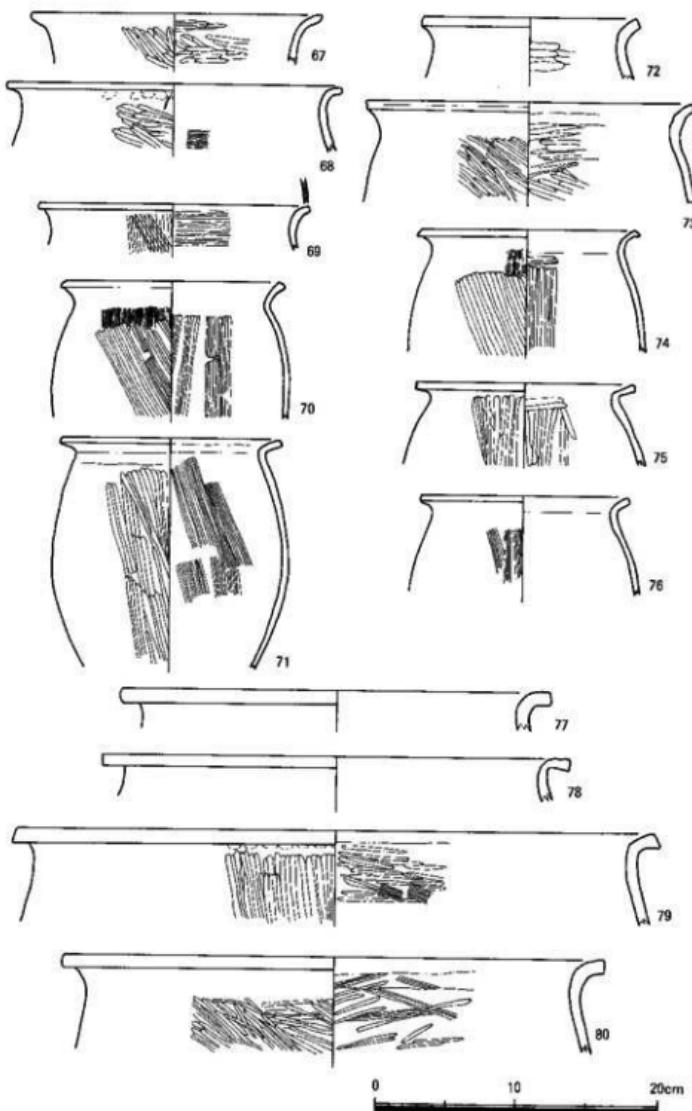
第12図 第2次調査第10層出土遺物実測図1



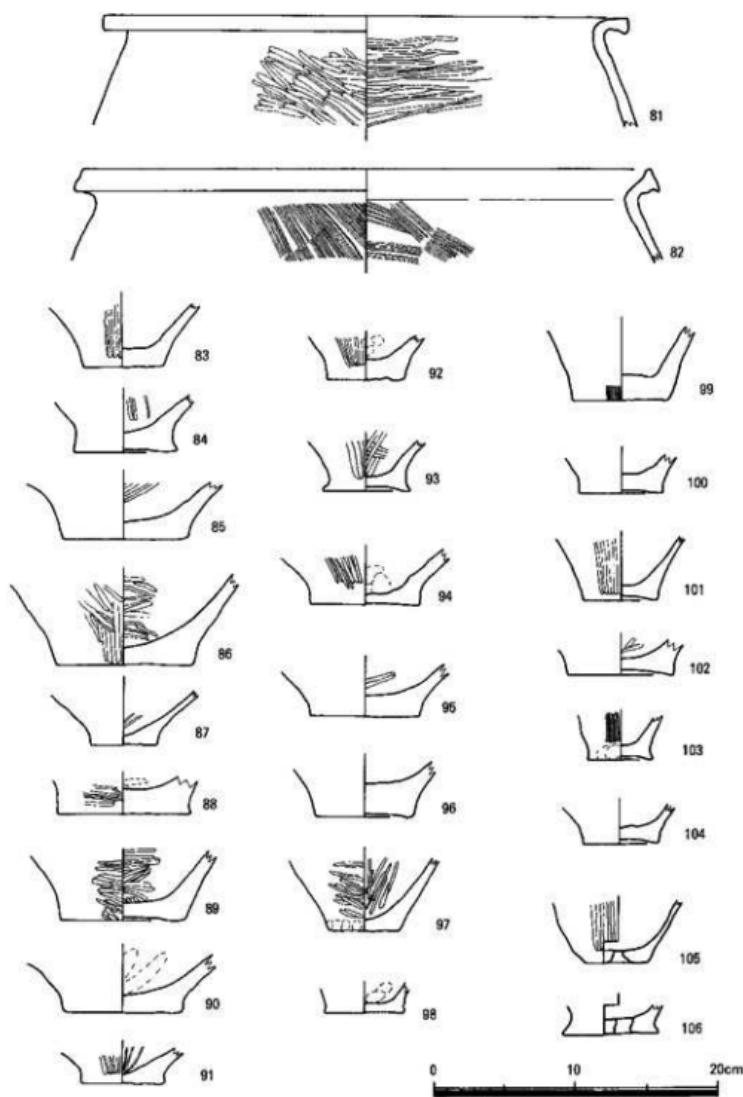
第13图 第2次调查第10层出土遗物实测图2



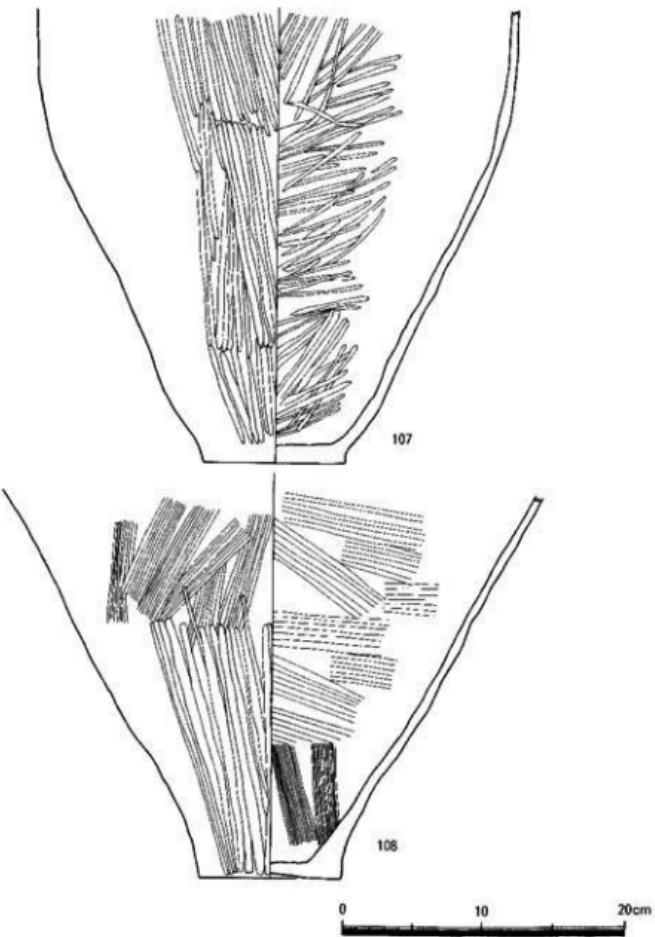
第14圖 第2次調查第10層出土遺物實測圖3



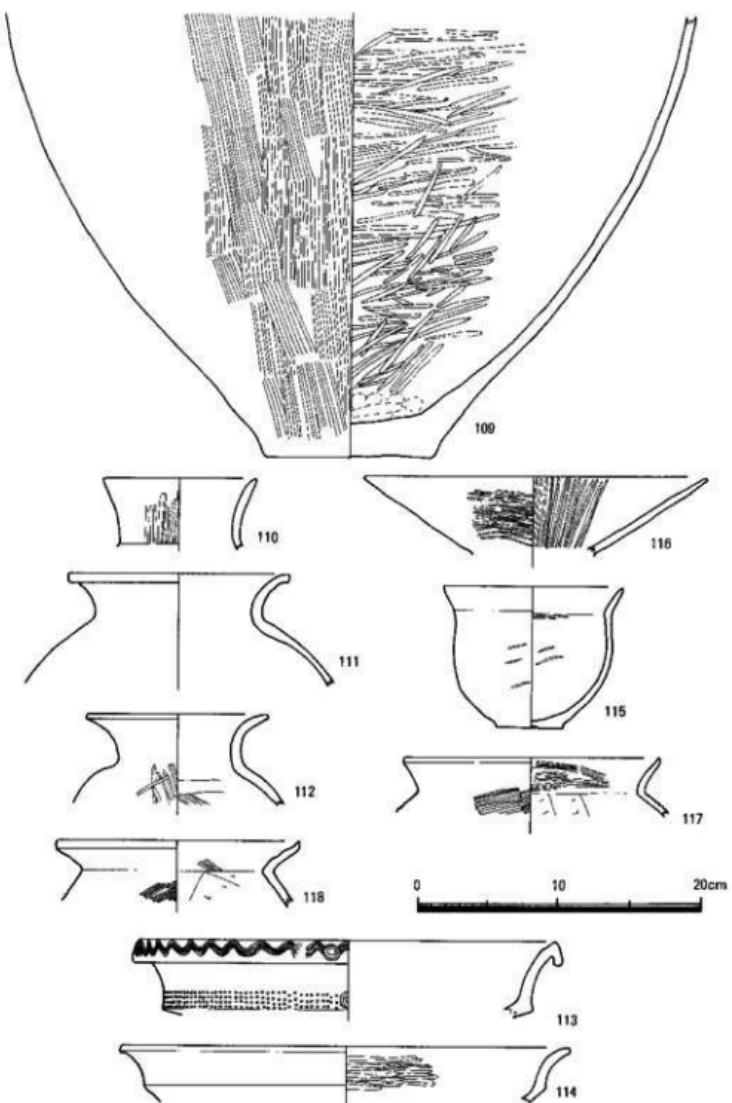
第15图 第2次调查第10层出土遗物实测图4



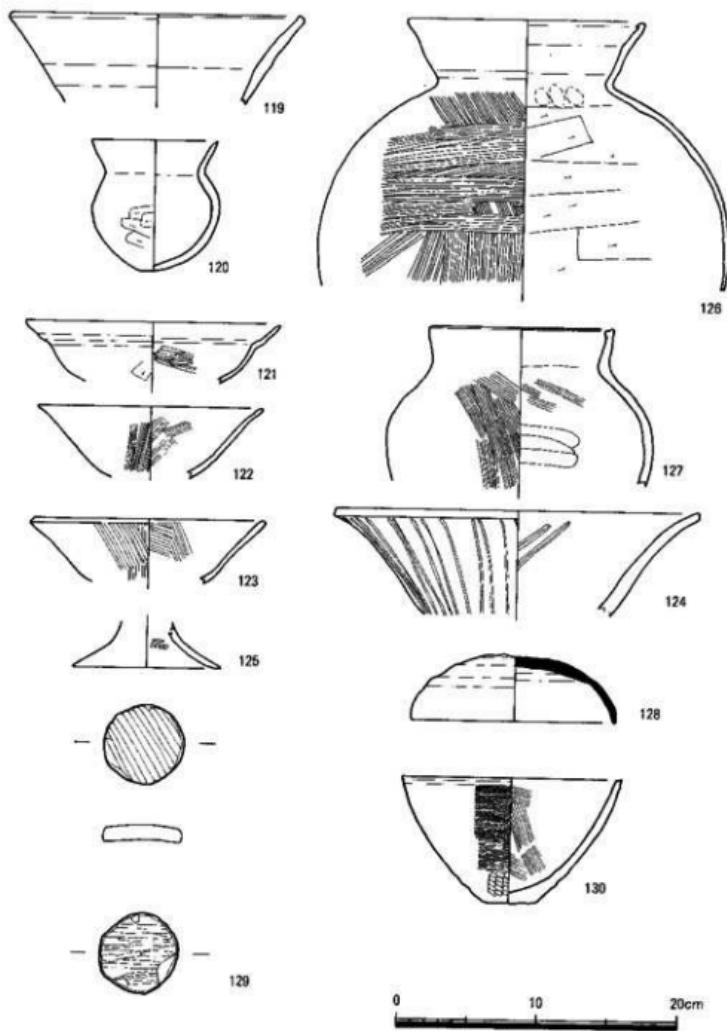
第16図 第2次調査第10層出土遺物実測図5



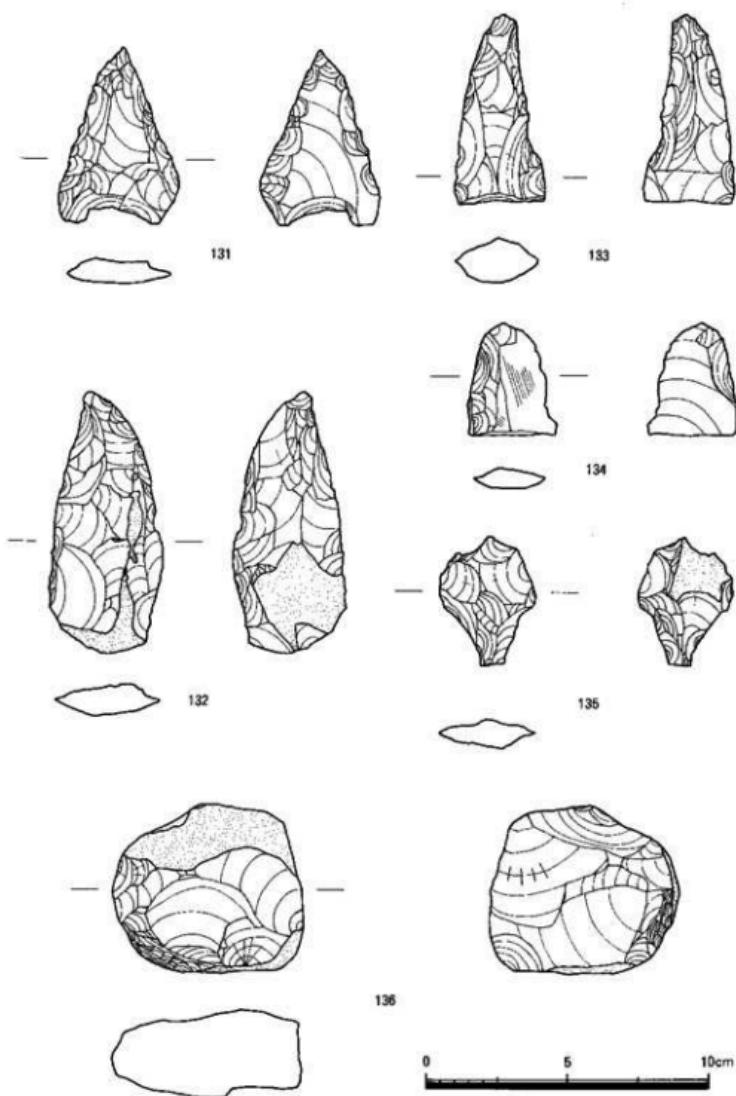
第17図 第2次調査第10層出土遺物実測図6



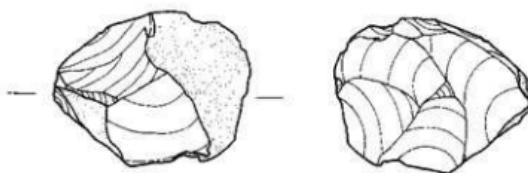
第18図 第2次調査第10層出土遺物実測図7



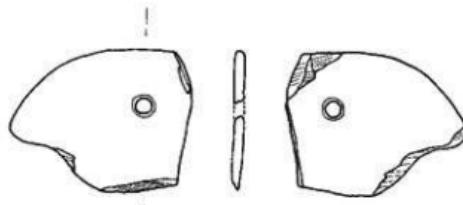
第19图 第2次调查第10号出土遗物实测图 8



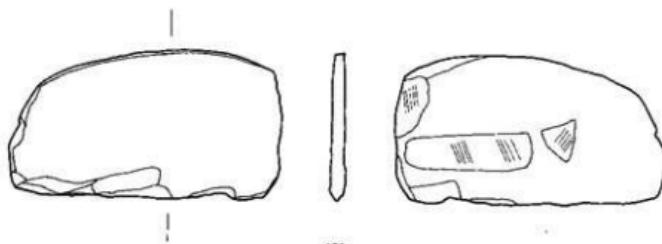
第20図 第2次調査第10層出土遺物実測図9



137



138



139



第21図 第2次調査第10層出土遺物実測図10

## 第4章 出土遺物観察表

第1次調査 第10層

| 遺物番号<br>出土地点 | 器種      | (cm) 口径<br>法縫<br>品高 | 形態・調査等の特徴   | 色調   | 胎上                  | 焼成<br>備考       |
|--------------|---------|---------------------|---|------|---------------------|----------------|
| 1 弥生式土器<br>甕 | 口徑 22.2 |                     | 頸部からゆるやかに外反する口縫部。端部は丸味のある面をもつ。口縫部内外面ともナデナダ。端部内外面とも斜方向のハケ目後ナダ。頸部内面は横方向のヘラミガキのちナダ。外面は瓶方向のハケ目。頸部に沈線文 2 条を施す。口縫部に縫孔を 2 個穿つ。 | 灰茶色  | 1~3mm程度の石英、長石を含む    | 良好 第1様式<br>新段階 |
| 2 弥生式土器<br>甕 | 口徑 20.4 |                     | 頸部から大きく外反する口縫部。端部は丸みのある面をもつ。口縫部内外面はナダ。外面は瓶方向のハケ目後ナダ。頸部内面は横方向のヘラミガキのちナダ。外面は瓶方向のハケ目。頸部に沈線文 9 条を施す。口縫部に縫孔を 1 個穿つ。          | 茶褐色  | 1mm程度の石英、長石を含む      | 良好 第1様式<br>新段階 |
| 3 弥生式土器<br>甕 | 頸深 10.0 |                     | 頸部からゆるやかに外反する口縫部。頸部内外面はヘラミガキ。端部に刺し付け凸巒を 3 本施す。凸巒上に布口仕張がある。  | 灰茶色  | 1~2mm程度の石英、長石を含む    | 良好 第1様式<br>新段階 |
| 4 弥生式土器<br>甕 | 口徑 20.8 |                     | ゆるやかに外反する口縫部。口縫部は丸く終る。口縫部、体部内外面とともにナダ。口縫端面に削み目。頸部に 4 条の沈線文を施す。  | 茶褐色  | 1mm程度の石英、長石を含む      | 良好 第1様式<br>新段階 |
| 5 弥生式土器<br>甕 | 口徑 19.0 |                     | ゆるやかに外反する口縫部。端部は狭い面をもつ。口縫部内外面はナダ。体部外面は斜方向のハケ目、内面は瓶方向のナダ。口縫端部に削み目。頸部に沈線文 5 条を施す。   | 茶褐色  | 1~2mm程度の石英、長石、青母を含む | 良好 第1様式<br>新段階 |
| 6 弥生式土器<br>甕 | 口徑 24.2 |                     | 外反する口縫部。端部は丸くおさめる。口縫部内外面ともにナダ。体部外面は、斜方向のハケ目、内面は瓶方向のナダ。口縫端部に削み目。体部外面に沈線文 5 条を施す。   | 茶褐色  | 1mm程度の石英、長石と含む      | 良好 第1様式<br>新段階 |
| 7 弥生式土器<br>甕 | 口徑 22.0 |                     | ゆるやかに外反する口縫部。端部は丸味をもつ。口縫部は内面ともにナダ。体部外面は斜方向のハケ目。内面はナダ。口縫端面に削み目。頸部に 6 条以上の沈線文を施す。   | 茶褐色  | 1mm程度の石英、長石、チャートを含む | 良好 第1様式<br>新段階 |
| 8 弥生式土器<br>甕 | 口徑 23.9 |                     | くの字に外反する口縫部。端部は丸味をもつ。口縫部および体部内外面ともにナダ。口縫基部に削み目。頸部に 4 条の沈線文を施す。  | 茶褐色  | 1mm程度の石英、長石を含む      | 良好 第1様式<br>新段階 |
| 9 弥生式土器<br>甕 | 口徑 22.0 |                     | 外反する口縫部。端部は丸味をもつ。口縫部内外面ともナダ。体部内面はナダ。外面は瓶方向のハケ目。頸部に沈線文 5 条を施す。   | 淡灰黒色 | 1mm程度の石英、長石、チャートを含む | 良好 第1様式<br>新段階 |

| 遺物番号<br>四脚番号 | 器種         | (cm)<br>寸量<br>口徑<br>高さ | 形態・調査等の特徴   | 色調   | 筋土                                 | 焼成 | 備考          |
|--------------|------------|------------------------|---|------|------------------------------------|----|-------------|
| 10           | 弥生式土器<br>甕 | 口径 21.0                | くの字に外反する口縁部。端部は丸味をもつて口縁部内外面ともナデ。体部内面はナデ。外面は頸部から斜方向のハケ目後ナデ。口縁端部に刻み目。頸部に沈線文 5 条を施す。               | 淡茶褐色 | 1mm程度の<br>石英、長石<br>を含む             | 良好 | 第Ⅰ様式<br>新段階 |
| 11           | 弥生式土器<br>甕 | 口径 28.6                | ゆるく外反する口縁部。端部は狭い曲をもつて口縁部内外面ともナデ。体部内面は脂オサエのナデ。外面は横方向のハケ目後ナデ。口縁端部に刻み月。頸部に沈線文 2 条を施す。              | 乳灰色  | 1mm程度の<br>石英、長石、<br>雲母を含む          | 良好 | 第Ⅰ様式<br>新段階 |
| 12           | 弥生式土器<br>甕 | 口径 23.6                | 外方へ折れ曲がる逆L字状の口縁部。口縁部内外面ともナデ。体部内面は横方向のナデ、外面は斜方向のハケ目。口縁端部に刻み月。頸部に 5 条の沈線文を施す。                     | 淡茶褐色 | 2mm程度の<br>石英、長石<br>を含む             | 良好 | 第Ⅰ様式<br>新段階 |
| 三            |            |                        |   |      |                                    |    |             |
| 13           | 弥生式土器<br>甕 | 口径 25.0                | 頸部からゆるやかに外反する口縁部。端部は丸味のある曲をもつて口縁部内外面ともナデ。外面はナデ。頸部外面に捏ね伏仰文を施す。                                   | 淡茶褐色 | 1~2mm程<br>度の石英、<br>長石、雲母<br>を含む    | 良好 | 第Ⅱ様式        |
| 三            |            |                        |   |      |                                    |    |             |
| 14           | 弥生式土器<br>甕 | 口径 35.2                | 頸部からゆるやかに外反する口縁部。口縁端部は下方へ肥厚する。口縁部内外面ともナデ。口縁部内面はヘラミガキのナデ。外面はナデ。頸部外面はヘラミガキのナデ。口縁下端に刻み月。頸部に直線文を施す。 | 茶褐色  | 1~2mm程<br>度の石英、<br>長石を含む           | 良好 | 第Ⅲ様式        |
| 15           | 弥生式土器<br>甕 | 口径 21.4                | 頸部からゆるやかに外反し、端部は下方へ肥厚する口縁部。口縁部内外面はナデ。頸部内面はナデ、外面はヘラミガキのナデ。口縁下端に刻み月。頸部に直線文を施す。                    | 淡茶褐色 | 1~2mm程<br>度の石英、<br>雲母を含む           | 良好 | 第Ⅳ様式        |
| 16           | 弥生式土器<br>甕 | 口径 26.8                | 頸部からゆるやかに外反する口縁部。端部は下方へ肥厚する曲をもつて口縁部内外面ともナデ。口縁端部に波状文を施す。   | 茶褐色  | 1mm程度の<br>石英、長石<br>を含む             | 良好 | 第Ⅴ様式        |
| 17           | 弥生式土器<br>甕 | 口径 14.2                | 斜めに外反する口縁部。端部は下方に折れ曲がる。口縁部、頸部内面はヘラミガキのナデ、ヘラミガキ筋、口縁部、頸部外面はナデ。口縁端部に波状文、頸部直線文 2 条、直線状文 2 条を施す。     | 淡灰茶色 | 1mm程度の<br>石英、長石<br>1mm以下の<br>雲母を含む | 良好 | 第Ⅵ様式        |
| 三            |            |                        |   |      |                                    |    |             |
| 18           | 弥生式土器<br>甕 | 口径 24.6                | 頸部からなだらかにひろがる口縁部。端部は下方へ肥厚する曲をもつて口縁部内外面ともナデ。口縁端部および内面はナデ、外面はヘラミガキ。口縁端部に直線文を施す。下端に刻み月を施す。         | 茶褐色  | 1mm程度の<br>石英、長石<br>を含む             | 良好 | 第Ⅶ様式        |
| 19           | 弥生式土器<br>甕 | 口径 22.0                | 頸部からなだらかにひろがる口縁部。端部は下方へ肥厚する曲をもつて口縁部内外面ともナデ。口縁端部および内面はナデ、外面はヘラミガキ。口縁端部に直線文を施す。                   | 茶褐色  | 2mm程度の<br>石英、長石<br>1mm以下の<br>雲母を含む | 良好 | 第Ⅷ様式        |

| 植物学名<br>同定番号     | 形 横<br>径 | (cm)<br>口径<br>法盤 | 形 異・調 整 等 の 特 徴   | 色 調  | 粒 土                                | 燃 成 | 備 考           |
|------------------|----------|------------------|---|------|------------------------------------|-----|---------------|
| 20 有生式上器<br>茎    | 口径 20.0  |                  | 外側下方に折れ曲がり、上内方につきだす受口状口縫部である。口縫端部および口縫部内外面ともナデ。口縫側面に瘤状文、波状文を施す。                           | 淡灰茶色 | 1mm程度の<br>石英を含む                    | 良好  | 第Ⅲ様式          |
| 21 有生式上器<br>茎    | 口径 27.2  |                  | 直立する頭部からなだらかにひらく口縫部。受口状口縫をなす。口縫部内外面はナデ、瘤部内面はヘアによるナデ。外面はラミガキ口縫端部に列点文、瘤状文を施す。               | 茶褐色  | 1mm程度の<br>石英、長石<br>1mm以下の<br>雲母を含む | 良好  | 第Ⅲ様式          |
| 22 有生式七瓣<br>頭顎   | 口径 14.8  |                  | 外開きの筒状の頭部にやや内側する口縫部。端部は内面へわずかに突出し瘤をなす。口縫部内外面ともナデ、口縫部以下列点文、瘤部内側に列点文を施す。                    | 茶褐色  | 1mm以下の<br>石英、長石、<br>雲母を含む          | 良好  | 第Ⅲ様式          |
| 23 有生式十器<br>把手付鉢 |          |                  | 口縫部まで直線的に開く。内外面ともナデ。  | 茶褐色  | 1mm程度の<br>石英、長石、<br>赤色酸化土<br>粒を含む  | 良好  |               |
| 24 有生式上器<br>茎    | 口径 36.2  |                  | 短く外反する口縫部。口縫端部、下端が巻き込む。口縫端部、ハケ目後ナデ、口縫端部、体部外面縫方向の粗いハケ目。口縫部内面横方向の粗いハケ目。口縫部内面上方にハケの原体による刻み目。 | 灰茶色  | 1mm程度の<br>石英、長石、<br>雲母を含む          | 良好  | 第Ⅲ様式<br>(大和群) |
| 25 有生式十器<br>茎    | 口径 23.0  |                  | 直線的に張る体部から丸く外反し口縫部に至る。端部は上方に肥厚し瘤をもつ。口縫部内外面ともナデ。体部内面はラミガキ、外面はハケ目。                          | 暗灰茶色 | 1mm以下の<br>石英、長石<br>を含む             | 良好  | 第Ⅲ様式          |
| 26 有生式上器<br>茎    | 口径 16.0  |                  | 張りの少ない体部から丸く屈曲し口縫部に至り端部はつまら上り気味に終る口縫部。口縫部内外面ともナデ。体部外面は縦方向のハケ目。内面は斜方向のハケ目。                 | 茶褐色  | 1mm以下の<br>雲母を含む                    | 良好  | 第Ⅲ様式          |
| 27 有生式上器<br>茎    | 口径 29.4  |                  | ぐの字に屈曲し口縫部に至る。口縫端部は面をもつ。口縫部内外面ともナデ。   | 淡乳茶色 | 1mm程度の<br>石英、長石<br>を含む             | 良好  |               |
| 28 有生式十器<br>茎    | 底径 11.4  |                  | 甲たく聞く体部からわざかに突出する底部。内外面ともナデ。  | 淡灰茶色 | 2mm程度の<br>石英、長石<br>を含む             | 良好  |               |
| 29 有生式十器<br>茎    | 底径 7.6   |                  | 平たく聞く体部からわざかに突出する平底。内面指頭ナデ。外面ナデ。  | 淡乳茶色 | 2mm程度の<br>石英、長石<br>を含む             | 良好  |               |
| 四                |          |                  |   |      |                                    |     |               |

| 遺物番号<br>回収番号 | 器種          | (cm)<br>口径<br>底径 | 形態・調査等の特徴   | 色調   | 胎土                     | 構成 | 備考 |
|--------------|-------------|------------------|---|------|------------------------|----|----|
| 30           | 弥生式土器<br>壺  | 底径 9.0           | 体部からわずかに突出する平底。内外面ともヘラ削き。   | 淡茶褐色 | 1mm程度の石英、長石、雲母を含む      | 良好 |    |
| 31           | 弥生式土器<br>壺  | 底径 11.0          | 体部からわずかに突出する平底。内面底部摩耗のため調整不規則。外面ハケナデ。                             | 淡茶灰色 | 1mm程度の石英、長石、チャートを含む    | 良好 |    |
| 32           | 弥生式土器<br>壺  | 底径 4.2           | 突出する平底。外側はヘラミガキ、内面はナダ。  | 暗茶灰色 | 1mm程度の石英、長石を含む         | 良好 |    |
| 33           | 弥生式土器<br>壺  | 底径 4.8           | 体部からわずかに突出する平底。内面指頭ナダ、ヘラナデ。外側ヘラミガキ。                               | 茶褐色  | 1mm程度の石英、長石を含む         | 良好 |    |
| 34           | 弥生式土器<br>壺  | 底径 6.4           | 体部からわずかに突出する平底。内面ナダ、外側ハケナデ。                                       | 茶褐色  | 1mm程度の石英、長石、雲母を含む      | 良好 |    |
| 五            |             |                  |   |      |                        |    |    |
| 35           | 弥生式土器<br>壺  | 底径 6.2           | むすかにつまみ外方へはり出すあが底状の底盤。内面ナダ、外側ハタケナダ後ナダ。                            | 淡茶灰色 | 1mm程度の石英、長石を含む         | 良好 |    |
| 36           | 弥生式土器<br>壺  | 底径 7.4           | 体部からわずかに突出する平底。内面ヘラナダ後指頭圧痕残る。外側ヘラミガキ。                             | 暗茶灰色 | 1~2mmの程度の石英、長石、チャートを含む | 良好 |    |
| 四            |             |                  |   |      |                        |    |    |
| 37           | 弥生式土器<br>壺  | 底径 6.0           | 突出しない平底。外側はナダ。下部に指頭圧痕残る。内面はヘラミガキのちナダ。                             | 茶褐色  | 1mm程度の石英、長石を含む         | 良好 |    |
| 五            |             |                  |   |      |                        |    |    |
| 38           | 弥生式土器<br>壺  | 底径 6.8           | やや突出する上底状の底盤。内面ナダ、外側ヘラによるナダ。底面に孔を有する。                             |      | 1mm以下の石英、長石、チャートを含む    | 良好 |    |
| 四            |             |                  |   |      |                        |    |    |
| 39           | 弥生式土器<br>高杯 |                  | 円錐状の脚部でゆるやかに外反して下方へ伸びる。脚部は中空である。脚部外側はヘラミガキ、内面は紋目上を指頭圧によるナダ、円孔を有す。 | 茶褐色  | 1mm以下の石英、長石、雲母を含む      | 良好 |    |

| 遺物番号<br>調査番号 | 器種           | (cm)<br>口径<br>器高 | 形態・調整等の特徴   | 色調   | 胎土                                | 焼成 | 備考 |
|--------------|--------------|------------------|---|------|-----------------------------------|----|----|
| 40           | 弥生式土器<br>高杯  |                  | 口縁部、底部欠損。脚部は柱状部から屈曲し<br>ながらに強く膨らむ。柱部は細い棒を作<br>った後、外反する口縁部に至る。柱状部内<br>面は紋目上を指頭仕上げ。外面はヘラミガ<br>キ。杯部内外面ヘナミガキ。 | 淡乳茶色 | 1mm程度の<br>石英、長石、<br>雲母を含む         | 良好 |    |
| 41           | 弥生式土器<br>櫛   | 底径 4.0           | 突出する底部で底部裏面は平底である。底部<br>外面はタキナ目、内面は指頭によるナデ、底<br>部裏面はナダ。   | 暗茶褐色 | 1mm以下の<br>石英、長石<br>を含む            | 良好 |    |
| 五            |              |                  |   |      |                                   |    |    |
| 42           | 弥生式土器<br>櫛   | 底径 4.9           | 突出する底部で、底部裏面は平底である。底<br>部外面はタキナ目、内面は底部が削離されて<br>いるため調整不明である。焼成前に底面に孔<br>を施している。                           | 淡茶灰色 | 2~3mm程<br>度の石英、<br>長石を含む          | 良好 |    |
| 五            |              |                  |   |      |                                   |    |    |
| 43           | 土師器<br>器台    | 脚台径 9.6          | 外面上半ヘラケズリ。下半ヘラミガキ。内面<br>ヘラによるナデ。脚部中央に竹管文を施す。  | 茶褐色  | 1mm以下の<br>石英、長石、<br>雲母を含む         | 良好 |    |
| 五            |              |                  |   |      |                                   |    |    |
| 44           | 土師器<br>盤     | 口径 13.2          | くの字形に強く削折し、外反する口縁部。端<br>部はつまみ上げ外傾する平坦面となる。口縁<br>部内外面ともヨコナダ。体部内面ヘラケズリ<br>外面ナデ。                             | 茶褐色  | 1mm以下の<br>石英、長石、<br>赤色鐵化上<br>部を含む | 良好 |    |
|              |              |                  |   |      |                                   |    |    |
| 45           | 土師器<br>盤     | 口径 16.0          | 口縁部のみ残存。くの字に強く削折し、外反<br>させにのびる口縁部に至る。端部は強くつま<br>み上げ直立する凹面となる。口縁部内面はハ<br>ケによるナデのちヨコナダ、外面はヨコナダ。             | 灰茶色  | 1mm程度の<br>石英を含む                   | 良好 |    |
|              |              |                  |   |      |                                   |    |    |
| 46           | 土師器<br>盤     | 口径 16.2          | くの字形に削折し、外反する口縁部に至る。<br>端部は上方つまみ、外傾する面をもつ。こ<br>の面にナデによる芯刷毛1条施す。口縁部内外<br>面ともヨコナダ、脚部外側ナデ、内面ヘラケ<br>ズリ。       | 暗灰褐色 | 1mm以下の<br>石英、長石、<br>角閃石を含<br>む    | 良好 |    |
| 五            |              |                  |   |      |                                   |    |    |
| 47           | 土師器<br>盤     | 口径 13.7          | 丸みのある体部から、くの字形に削折し、外<br>反する口縁部。端部は丸みのある面をもつ。<br>口縁部内外面ナダ。体部外側タキナ目の中斜<br>方向のハケ目、内面はヘラケズリ。口縁部。<br>体部上下残存。   | 茶褐色  | 1mm以下の<br>石英、長石、<br>角閃石、雲<br>母を含む | 良好 |    |
| 五            |              |                  |   |      |                                   |    |    |
| 48           | 土師器<br>小型丸底壺 | 口径 11.0          | 体部よりくの字に削角し、外反する口縁部。<br>端部は丸く終る。口縁部内外面ともヘラミ<br>ガキ。内面にヘラによる圧痕が残る。  | 淡乳茶色 | 稍良                                | 良好 |    |
|              |              |                  |   |      |                                   |    |    |
| 49           | 土師器<br>小型丸底壺 | 口径 11.4          | 内面に棱をもち、外上方に長くひらき。<br>端部は薄くなる。口縁部内外面はヘラミガキ<br>体部内面ナデ、外側ハケのちヘナミガキ。   | 淡乳茶色 | 精良                                | 良好 |    |
| 六            |              |                  |   |      |                                   |    |    |

| 区分番号<br>回数番号 | 器種           | (cm)<br>口径<br>高さ | 形態・調査等の特徴   | 色調   | 胎土                               | 焼成 | 備考 |
|--------------|--------------|------------------|---|--|----------------------------------|----|----|
| 50           | 土師器<br>小堅丸底盤 | 口径 9.0           | 蝶形の体部からくの字に曲り、やや内傾ぎみ<br>な口縁部。底部はとがる。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ、外面ハケナデ。                | 淡乳灰色   | 1mm以下の<br>石英、長石<br>を含む           | 良好 |    |
| 51           | 土師器<br>甕     | 口径 12.4          | 内面に腰をもち外反する口縁部。端部は内方<br>に少し肥厚し、内傾する。口縁部内外面とも<br>ヨコナデ。肩部内面ヘラケズリ、外面ナデ。            | 淡乳灰赤色  | 1mm以下の<br>石英、長石、<br>チャートを<br>含む  | 良好 |    |
| 六            |              |                  |   |  |                                  |    |    |
| 52           | 土師器<br>甕     | 口径 16.0          | 内面に腰をもち、内窪しながらひらく。端部<br>は内方に肥厚し、内傾する腰をもつ。口縁部<br>内外面ともヨコナデ。肩部内面はナテ内面ヘ<br>ラケズリ。   | 淡茶灰色   | 1mm程度の<br>石英、長石<br>を含む           | 良好 |    |
| 53           | 土師器<br>甕     | 口径 12.8          | 丸く屈曲し上外方へ外反して伸びる口縁部。<br>口縁部は内に肥厚し内傾する半円面となる。<br>口縁部内外面ともヨコナデ。肩部内面ヘラケ<br>ズリ外面ナデ。 | 淡赤色  | 1mm程度の<br>石英、長石、<br>チャートを<br>含む  | 良好 |    |
| 54           | 土師器<br>甕     | 口径 16.4          | くの字に外反しや内傾ぎみの口縁部。口縁<br>内外面ともヨコナデ。体部内面ヘラケズリ。                                     | 淡乳灰赤色  | 1mm程度の<br>石英、長石、<br>赤色膨化土<br>を含む | 良好 |    |
| 六            |              |                  |   |  |                                  |    |    |
| 55           | 石縁           | 長さ<br>幅<br>厚み    | 4.8<br>1.6<br>5.0   | サスカイト製の打製石縁である。凹基無尖式<br>で、半圓は一角形である。断面は菱形である。<br>表面には押圧剝離が全面に施されている。裏<br>面には素材の剥離面を残し、柄縫から押圧剝<br>離が施されている。 |                                  |    |    |
| 六            |              |                  |   |  |                                  |    |    |
| 56           | 石縁           | 長さ<br>幅<br>厚み    | 4.8<br>2.5<br>0.8   | サスカイト製の打製石縁である。円形無基式<br>で、両面に剝離より押圧剝離を施している。<br>裏面には素材の剥離面を残している。  |                                  |    |    |
| 六            |              |                  |   |  |                                  |    |    |
| 57           | 石縁           | 長さ<br>幅<br>厚み    | 6.5<br>2.9<br>1.4   | 石質はサスカイトである。断面は菱形である。<br>先端部は欠損している。両面に素材の剥離<br>面を残している。未製品である。  |                                  |    |    |
| 六            |              |                  |   |  |                                  |    |    |
| 58           | 石縁           | 長さ<br>幅<br>厚み    | 3.1<br>2.1<br>0.6   | サスカイト製。基部は裏面を残す。両面に素<br>材の剥離面を残す。先端部は欠損している。   |                                  |    |    |
| 六            |              |                  |   |  |                                  |    |    |
| 59           | 石磨丁          | 長さ<br>幅<br>厚み    | 3.5<br>4.2<br>0.6   | 平円形直線刃である。両面に研削を施してい<br>る。   |                                  |    |    |
| 六            |              |                  |   |  |                                  |    |    |

## 第2次調査 SK-1

| 遺物名<br>回収番号 | 器種         | (cm) 口径<br>法量 | 形態・調整等の特徴  | 色調   | 胎土           | 焼成 | 備考 |
|-------------|------------|---------------|--|------|--------------|----|----|
| 1<br>七      | 弥生式上器<br>蓋 | 口径 25.2       | 外反する口縁部。底部は上下方につまみ。四角形の面である。口縁部内外面ヨコナデ。體部内外面ヘラミガキ。口縁底面下端に刻み目。  | 茶褐色  | 1~2mm程度の砂粒含む | 良好 |    |
| 2           | 弥生式土器<br>蓋 | 口径 13.4       | 水平近くに外反する口縁部。縁部は下ろに、つまみ、四角形の面である。口縁部内外面ヨコナデ。縁面に直線文。            | 茶褐色  | 1mm程度の砂粒含む   | 良好 |    |
| 3           | 弥生式土器<br>蓋 | 口径 20.0       | くの字に外反する口縁部。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミガキ。外面に指ぬによる圧痕ある。                | 淡茶褐色 | 1~3mm程度の砂粒含む | 良好 |    |
| 4<br>七      | 弥生式土器<br>蓋 | 口径 22.4       | やや張り出す体部から丸く外反する口縁部に至る。縁部は丸く終る。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミガキ。          | 茶褐色  | 1mm程度の砂粒含む   | 良好 |    |
| 5           | 弥生式土器<br>蓋 | 口径 14.2       | 張りの少ない体部から水平近くに曲り口縁部に至る。縁部は直線をもつ。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ハケナデ。外面ヘラミガキ。 | 乳白色  | 1mm程度の砂粒含む   | 良好 |    |
| 6           | 弥生式土器<br>蓋 | 口径 20.6       | 直線的な体部から丸く外反して口縁部に至る。縁部は丸く終る。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミガキ。            | 淡乳茶色 | 2mm程度の砂粒含む   | 良好 |    |
| 7           | 弥生式土器<br>蓋 | 底径 5.4        | 突出しない上げ底状の底部。内面ナデ、外面ヘラミガキ。                                     | 茶褐色  | 2mm程度の砂粒含む   | 良好 |    |
| 8           | 弥生式土器<br>蓋 | 底径 5.0        | 突出する上げ底状の底部。内外面ともヘラミガキ。  | 茶褐色  | 1mm程度の砂粒含む   | 良好 |    |

## SK-2

| 器物番号<br>回収番号     | 器 高<br>(cm) | 口径<br>法量<br>器高 | 形 態・調 整 等 の 特 徴                        | 色 調 | 胎 土            | 焼 成 | 備 考 |
|------------------|-------------|----------------|--|-----|----------------|-----|-----|
| 9<br>弥生式土器<br>也  |             | 口径 19.8        | 外反する口縁部。縁部は曲をもつ。口縁部内外面ココナデ。縁部内外面ヘラミガキ。 | 茶褐色 | 5mm程度の<br>砂粒含む | 良好  |     |
| 10<br>弥生式土器<br>也 |             | 底径 12.6        | 少し突出する平底。内面ナデ、外面ヘラミガキ。                 | 茶褐色 | 2mm程度の<br>砂粒含む | 良好  |     |

## SK-3

| 器物番号<br>回収番号     | 器 高<br>(cm) | 口径<br>法量<br>器高 | 形 態・調 整 等 の 特 徴  | 色 調 | 胎 土                  | 焼 成 | 備 考 |
|------------------|-------------|----------------|--|-----|----------------------|-----|-----|
| 11<br>弥生式土器<br>林 |             | 口径 23.0        | 直線的に開き、内窩ぎみに立ち上がる口縁部。縁部は内傾する面をもつ。口縁部、体部内外面ヘラミガキ。外面に虚線文、崩形文を施す。 | 茶褐色 | 2~4mm程<br>度の砂粒含<br>む | 良好  |     |
| 七                |             |                |  |     |                      |     |     |

## SK-4

| 器物番号<br>回収番号     | 器 高<br>(cm) | 口径<br>法量<br>器高     | 形 態・調 整 等 の 特 徴   | 色 調  | 胎 土                  | 焼 成 | 備 考  |
|------------------|-------------|--------------------|---|------|----------------------|-----|------|
| 12<br>弥生式土器<br>也 |             | 口径 14.5<br>器高 28.9 | 外反する口縁部。体部は丸みをもつ。突出する平底の底部。口縁部内外面ともココナデ、縁部内面ヘラミガキの箇所によるナデ、外面ヘラミガキ。体部内外面ともヘラミガキ。 | 暗茶褐色 | 2mm程度の<br>砂粒含む       | 良好  | 第Ⅱ様式 |
| 七                |             |                    |   |      |                      |     |      |
| 13<br>弥生式土器<br>腰 |             | 底径 7.0             | 少し突出する上げ底状の底部。内面ナデ、外面ハケナデ。  | 淡茶白色 | 3mm程度の<br>砂粒含む       | 良好  |      |
| 14<br>弥生式土器<br>腰 |             | 底径 6.6             | 上げ底状の底部。内外面ともナデ。  | 灰茶褐色 | 1~3mm程<br>度の砂粒含<br>む | 良好  |      |

## SK-5

| 遺物番号<br>出発番号 | 器 横<br>幅 | (cm)<br>口径<br>法盤<br>底面 | 形 態・調 整 等 の 特 徴  | 色 調  | 胎 土            | 施 成 | 備 考 |
|--------------|----------|------------------------|--|------|----------------|-----|-----|
| 15<br>七      | 土器<br>壺  | 口径 10.4                | 球形の体部から折曲し外反する口縁部。口縁端部は尖りきみである。口縁部内面ヨコナデ。外面ヨコナデの中へラミガキ。体部内面ヘラケズリ、指觸によるナデ。外面ハケナデ。 | 灰褐色  | 1mm程度の<br>砂粒含む | 良好  |     |
| 16<br>七      | 土器<br>高杯 | 口径 14.6                | 内窵してのびる口縁部。内面ナデのち方斜状のヘラミガキ。外面ナデ。   | 淡茶乳色 | 1mm程度の<br>砂粒含む | 良好  |     |
| 17<br>七      | 土器<br>壺  | 口径 16.5                | 球形の体部からくの字に折曲し外反する口縁部。縫部は丸く終る。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面はハケナデ。内面ヘラケズリのち指觸によるナデ。             | 淡灰茶色 | 2mm程度の<br>砂粒含む | 良好  |     |
| 18<br>七      | 土器<br>壺  | 口径 14.2                | 球形の体部から折曲し内寄きみに立ち上る口縁部。口縁端部は内側する面をもつ。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ。外面ハケナデ。                | 茶褐色  | 1mm程度の<br>砂粒含む | 良好  |     |

## 第2次調査 第10番

| 遺物番号<br>回収番号 | 器種         | (cm)<br>口径<br>高さ | 形態・調査等の特徴   | 色調   | 胎土                                | 焼成 | 備考          |
|--------------|------------|------------------|---|------|-----------------------------------|----|-------------|
| 19<br>八      | 弥生式土器<br>壺 | 口径 17.2          | 頸部からゆるやかに外反する口縁部。端部は丸味のある面をもつ。口縁部内面はナデ。頸部から体部内面は、ハケ後ナデ。外面はヘラミガキ。頸部外面に削り出し突起上に沈線文4条を施す。      | 淡茶灰色 | 1mm程度の<br>石英等を含む                  | 良好 | 第Ⅰ様式<br>新段階 |
| 20<br>八      | 弥生式土器<br>壺 | 口径 19.4          | 頸部よりゆるやかに外反する口縁部。端部は削りもつ。口縁部内面はヘラミガキ後ナデ。外面はナデ。頸部内面はナデ。外面はヘラミガキ後ナデ。頸部に削り出し突起上に沈線文3条を施す。      | 茶灰色  | 1~2mm程<br>度の石英、<br>長石を含む          | 良好 | 第Ⅰ様式<br>新段階 |
| 21<br>八      | 弥生式土器<br>壺 | 口径 17.4          | 頸部より外反する口縁部。端部はやや丸味のある面をもつ。口縁部内面はヘラミガキ後ナデ。外面はハケ日後ナデ。頸部内外面ともヘラミガキ。端部に沈線文の痕跡がみえる。頸部に沈線文1条を施す。 | 淡乳茶色 | 1mm程度の<br>石英、長石を含む                | 良好 | 第Ⅰ様式<br>新段階 |
| 22<br>八      | 弥生式土器<br>壺 | 口径 18.2          | 頸部よりゆるやかに外反する口縁部。端部は削りもつ。口縁部内外面はナデ。頸部内外面はヘラミガキ。頸部に沈線文を3条施す。                                 | 暗茶褐色 | 2mm程度の<br>石英、チャートを含む              | 良好 | 第Ⅰ様式<br>新段階 |
| 23<br>八      | 弥生式土器<br>壺 | 口径 14.0          | ゆるやかに外反する口縁部。口縁部内外面ナデ。体部内外面ヘラミガキ。頸部に沈線文を2条施す。口縁部に穿孔あり。                                      | 淡茶灰色 | 1~2mm程<br>度の石英、<br>長石を含む          | 良好 | 第Ⅰ様式<br>新段階 |
| 24<br>八      | 弥生式土器<br>壺 | —                | 頸部から外反する口縁部と思われる。内外面ヘラミガキ。外面の削り出し突起上に沈線文を4条施す。  | 淡灰茶色 | 1~2mm程<br>度の石英、<br>長石を含む          | 良好 | 第Ⅰ様式<br>新段階 |
| 25<br>八      | 弥生式土器<br>壺 | —                | 頸部から外反する口縁部と思われる。内外面ヘラミガキ。外面の削り出し突起上に沈線文を2条施す。  | 淡灰茶色 | 1~2mm程<br>度の石英、<br>長石、漂母を含む       | 良好 | 第Ⅰ様式<br>新段階 |
| 26<br>八      | 弥生式土器<br>壺 | —                | 扁平な体部。体部外面ともヘラミガキ。外面に沈線文を8条施す。  | 淡灰色  | 1~2mm程<br>度の石英、<br>チャート、<br>漂母を含む | 良好 | 第Ⅰ様式<br>新段階 |
| 27<br>八      | 弥生式土器<br>壺 | —                | 削の張った体部。内外面ともヘラミガキ。貼り付け凸唇を施す。凸唇上には刻み目がある。   | 淡灰茶色 | 1~2mm程<br>度の石英、<br>漂母を含む          | 良好 | 第Ⅰ様式<br>新段階 |
| 28<br>八      | 弥生式土器<br>壺 | 口径 20.6          | ゆるく外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。口縁部内外面ともナデ。体部内面ナデ。外面ハケ目。口縁端面下方に刻み目。                                    | 淡茶色  | 1~2mm程<br>度の石英、<br>長石、チャートを含む     | 良好 | 第Ⅰ様式<br>新段階 |

| 器物名<br>記載番号 | 器種         | (cm)<br>口径<br>法規基點 | 形態・調整等の特徴  | 色調   | 粒<br>子                   | 施成 | 備考          |
|-------------|------------|--------------------|--|------|--------------------------|----|-------------|
| 29          | 弥生式土器<br>甕 | 口径 19.2            | ゆるく外反する口縁部。端部は丸くおわる。口縁部内外面ともナデ。体部内面は斜方向のヘラミガキ。外面は縱方向のヘラミガキ。腹部に沈線文1条を施す。口縁端部に刻み目。 | 淡灰茶色 | 1mm程度の<br>石英を含む          | 良好 | 第Ⅰ様式<br>新説例 |
| 30          | 弥生式土器<br>甕 | 口径 22.8            | ゆるく外反する口縁部。端部は丸味のある面をもつ。口縁部、腹部内外面ともナデ。腹部沈線文2条を施す。                                | 淡灰茶色 | 1~2mm程<br>度の石英、<br>長石を含む | 良好 | 第Ⅰ様式<br>新説例 |
| 31          | 弥生式土器<br>甕 | 口径 23.8            | ゆるやかに外反する口縁部で、端部は下方に肥厚する。口縁部、腹部内外面ともナデ。腹部外面上面に直線文を施す。                            | 茶褐色  | 1~2mm程<br>度の石英を<br>含む    | 良好 | 第Ⅱ様式        |
| 32          | 弥生式土器<br>甕 | 口径 16.0            | 水平に曲る口縁部。端部は下方に肥厚する。口縁部内外面はヨコナデ。腹部内面ヘラミガキ。外面ナデ。口縁部下端に刻み目。腹部に直線文を施す。              | 淡灰茶色 | 1mm程度の<br>石英、雲母<br>を含む   | 良好 | 第Ⅱ様式        |
| 33          | 弥生式土器<br>甕 | 口径 25.8            | 外反する口縁部。口縁端部は丸味のある面をもつ。口縁部内面ヘラミガキ。外面ナデ。腹面上に横幅の直線文の上に縱方向の短線を施す。                   | 淡茶褐色 | 1~2mm程<br>度の石英、<br>長石を含む | 良好 | 第Ⅱ様式        |
| 34          | 弥生式土器<br>甕 | 口径 22.0            | 外反する口縁部。口縁端部は下方に肥厚し面をもつ。口縁部内面ヘラミガキ。外面ナデ。端面に横幅の直線文の上に縱方向の短線を施す。                   | 淡茶褐色 | 2~3mm程<br>度の石英を<br>含む    | 良好 | 第Ⅱ様式        |
| 35          | 弥生式土器<br>甕 | 口径 27.2            | 外反する口縁部。口縁端部は上方に少しはり出す面をもつ。口縁部内面ナデ。外面ヘラ<br>ミガキ。端面に間による沈線の上に縱方向の沈線を施す。            | 暗灰褐色 | 1~2mm程<br>度の石英を<br>含む    | 良好 | 第Ⅱ様式        |
| 八           |            |                    |  |      |                          |    |             |
| 36          | 弥生式土器<br>甕 | 口径 20.0            | 水平近くに外反する口縁部。口縁端部は下方に肥厚する。口縁部内面ヨコナデ。外面ヘラ<br>ミガキ。口縁端面上下方に刻み目。腹面上に直<br>線文を施す。      | 茶褐色  | 1mm程度の<br>石英、長石<br>を含む   | 良好 | 第Ⅱ様式        |
| 八           |            |                    |  |      |                          |    |             |
| 37          | 弥生式土器<br>甕 | 口径 25.8            | 外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。口縁部内外面ナデ。体部内面ヘラミガキ。外面ナデ。腹面上に刻み目。口縁部内面に豊富文を施す。                  | 灰茶色  | 1~2mm程<br>度の石英、<br>雲母を含む | 良好 | 第Ⅱ様式        |
| 38          | 弥生式土器<br>甕 | 口径 31.0            | 外反する口縁部。端部は丸い面をもつ。口縁部内外面ヘラミガキ後ナデ。端面上に刻み目を施す。                                     | 暗茶褐色 | 1~2mm程<br>度の石英を<br>含む    | 良好 | 第Ⅱ様式        |

| 遺物件号<br>登録番号 | 器種         | (cm)<br>口径<br>底深 | 形態・調査等の特徴   | 色調   | 胎土                        | 焼成 | 備考   |
|--------------|------------|------------------|---|------|---------------------------|----|------|
| 39           | 弥生式土器<br>壺 | 口径 29.4          | 水平近くまで外反する口縁部。口縁端部は下方に肥厚し面をもつ。口縁部内外面ともナデ。口縁端面に刻み目を施す。               | 淡茶乳色 | 1mm程度の<br>石英、長石、<br>雲母を含む | 良好 | 第Ⅱ様式 |
| 40           | 弥生式土器<br>壺 | 口径 32.8          | 外反する口縁部。口縁端部は上方に肥厚し面をもつ。口縁部内外面ともナデ。口縁端面に網格文を施す。                     | 淡赤褐色 | 1mm程度の<br>石英、長石、<br>雲母を含む | 良好 | 第Ⅱ様式 |
| 41           | 弥生式土器<br>壺 | 口径 29.2          | 直立する体部から丸く凹曲し下方へ少し肥厚する口縁部。口縁部内外面ともナデ。端面に刻み目を施す。                     | 淡灰茶色 | 1mm程度の<br>石英、長石、<br>雲母を含む | 良好 | 第Ⅱ様式 |
| 42           | 弥生式土器<br>壺 | 口径 39.6          | 外反する口縁部。口縁端部は下方に肥厚し面をもつ。口縁部内外面ともナデ。口縁端面下部に刻み目を施す。                   | 暗灰褐色 | 1mm程度の<br>石英を含む           | 良好 | 第Ⅱ様式 |
| 43           | 弥生式土器<br>壺 | 口径 34.0          | 外反する口縁部。口縁端部は下方に肥厚する。口縁部内面へラミガキ後ナデ、外面ナデ。口縁端面下方に刻み目、端部外面に直線文を施す。     | 淡茶色  | 2mm程度の<br>石英を含む           | 良好 | 第Ⅲ様式 |
| 44           | 弥生式土器<br>壺 | 口径 22.6          | 水平近くに外反する口縁部。口縁端部は下方に肥厚し面をもつ。口縁部内外面ナデ。頸部内面へラミガキ、外面ナデ。口縁端面下方に刻み目を施す。 | 淡灰茶色 | 1mm程度の<br>石英、長石<br>を含む    | 良好 | 第Ⅲ様式 |
| 45           | 弥生式土器<br>壺 | 口径 34.0          | 外反する口縁部。口縁端部は下方に肥厚する。口縁部内外面はヨコナカ。頸部内面へラミガキ、外面ナデ。口縁端面下方に刻み目を施す。      | 茶褐色  | 1~2mm程<br>度の石英、<br>雲母を含む  | 良好 | 第Ⅲ様式 |
| 46           | 弥生式土器<br>壺 | 口径 29.6          | 外反する口縁部、口縁端部は下方に肥厚し面をもつ。口縁部内外面ともナデ。端面に波状文、端面下端に刻み目を施す。              | 灰茶色  | 1~2mm程<br>度の石英を<br>含む     | 良好 | 第Ⅲ様式 |
| 47           | 弥生式土器<br>壺 | 口径 19.2          | 丸く外反する口縁部。口縁端部は下方に肥厚し面をもつ。口縁部内外面ともナデ。端面に波状文、下端に刻み目を施す。              | 暗灰色  | 1~2mm程<br>度の石英を<br>含む     | 良好 | 第Ⅲ様式 |
| 48           | 弥生式土器<br>壺 | 口径 25.0          | 外反する口縁部。口縁端部は下方に肥厚し面をもつ。口縁部内外面ともナデ。口縁端面に波状文、下端に刻み目を施す。              | 暗灰色  | 雲母を含む                     | 良好 | 第Ⅲ様式 |

| 遺物名号<br>記載番号 | 器種<br>名    | (cm)<br>法量<br>口径 | 口縁<br>部 | 形態・測定等の特徴   | 色調   | 胎土                         | 焼成 | 備考   |
|--------------|------------|------------------|---------|---|------|----------------------------|----|------|
| 49           | 弥生式土器<br>壺 | 口径 25.4          |         | 外反する口縁部。口縁端部は下方に肥厚し面をもつ。口縁部内外面ナナメ。頭部内面ヘラミガキ後ナナメ。外面ハケ後ナナメ。端面に縦状文、下端に刻み目を施す。                | 淡茶灰色 | 1mm程度の<br>石英、長石、<br>雲母を含む  | 良好 | 第Ⅲ様式 |
| 50           | 弥生式土器<br>壺 | 口径 44.0          |         | 外反する口縁部。口縁端部は下方に肥厚し面をもつ。口縁部内外面ナナメ、外面ハケ後ナナメ。端面に縦状文、下端に刻み目を施す。                              | 茶褐色  | 3mm程度の<br>石英を含む<br>雲母を含む   | 良好 | 第Ⅲ様式 |
| 51           | 弥生式土器<br>壺 | 口径 33.0          |         | 外反する口縁部。口縁端部は上下に山字面をもつ。口縁部内外面ともナナメ。口縁端面に波状文、下方に刻み目を施す。                                    | 茶灰色  | 1mm程度の<br>石英を含む            | 良好 | 第Ⅲ様式 |
| 52           | 弥生式土器<br>壺 | 口径 30.0          | 八       | 外反する頭部から曲折し、内傾して立ち上がる口縁部。端面は下方にも肥厚する。口縁部内外面ヨコナメ、頭部内外面ナナメ。口縁端面に列点文、崩形文を施す。頭部に直線文を施す。       | 淡茶灰色 | 1mm程度の<br>石英、長石、<br>雲母を含む  | 良好 | 第Ⅲ様式 |
| 53           | 弥生式土器<br>壺 | 口径 26.9          |         | 内傾して上下に拡張する受口状口縁である。上端は内傾する面で、下端は丸みのある面である。口縁部内外面ともナナメ。口縁端面に輻方向の直線文を施す。                   | 茶灰色  | 1mm程度の<br>石英、長石、<br>角閃石を含む | 良好 | 第Ⅲ様式 |
| 54           | 弥生式土器<br>壺 | 口径 20.4          | 八       | 外反する頭部から曲折し、内傾して立ち上がる口縁部。端面、下方に拡張。口縁部内外面ヨコナメ。口縁端面に縦状文、崩形文を施す。                             | 淡茶灰色 | 1mm程度の<br>石英を含む            | 良好 | 第Ⅲ様式 |
| 55           | 弥生式土器<br>壺 | 口径 13.4          | 九       | 外反する頭部から水平近くにひらく口縁部に至る。口縁端部は下方に肥厚し面をもつ。口縁部内外面ヨコナメ、頭部内面ヘラミガキ、外面ナナメ。口縁端面に縦状文、頭部に直線文、崩形文を施す。 | 茶褐色  | 2mm程度の<br>石英、雲母<br>を含む     | 良好 | 第Ⅲ様式 |
| 56           | 弥生式土器<br>壺 | 口径 17.6          | 九       | 外反する頭部から水平にひらく口縁部。口縁端部は上下に凹凸し、面をもつ。口縁部内外面ヨコナメ。口縁端部に縦状文、頭部に直線文を施す。                         | 茶灰色  | 1mm程度の<br>石英、長石、<br>雲母を含む  | 良好 | 第Ⅲ様式 |
| 57           | 弥生式土器<br>鉢 | 口径 24.0          | 九       | 内側して立つ直口の鉢。頭部は水平な面となり内につまんで絞る。外面上位に波状文、その下に直線文を施す。体部外面ハケ後ナナメ。内面ハケナナメ。                     | 茶褐色  | 1mm程度の<br>石英、長石、<br>雲母を含む  | 良好 | 第Ⅲ様式 |
| 58           | 弥生式土器<br>鉢 | 口径 25.2          | 九       | 内側して立つ直口の鉢。端面は上側がすこしくぼむ面をもつ。外面上位に2列の直線文を施す。口縁部内外面ナナメ、体部内外面ヘラミナナメ。                         | 茶褐色  | 1mm程度の<br>石英、長石、<br>雲母を含む  | 良好 | 第Ⅲ様式 |

| 出典番号<br>回収番号 | 器種          | (cm)<br>口径<br>高さ | 形態・調査等の特徴  | 色調   | 胎上                            | 焼成 | 備考   |
|--------------|-------------|------------------|--|------|-------------------------------|----|------|
| 59           | 弥生式土器<br>鉢  | 口径 17.6          | 丸味をもつて底からゆるやかに内凹し縁部に至る。縁部はやくぼみがある面をもつ。体部内外面ともハケナダ後ヘラナ。口縁部の外面ともナダ。                          | 淡赤茶色 | 1mm程度の<br>石英、チャート、雲母<br>を含む   | 良好 | 第Ⅲ様式 |
| 60           | 弥生式土器<br>鉢  | 口径 18.6          | 段状の口縁部をもつ。口縁部上端は内方に傾斜。口縁部外面ナダ。体部内面ヘラミガキ。外曲ナダ。口縁部端面、体部に縦状文、外版文を施す。                          | 灰茶色  | 1mm程度の<br>石英、雲母、<br>角閃石を含む    | 良好 | 第Ⅲ様式 |
| 九            |             |                  |  |      |                               |    |      |
| 61           | 弥生式土器<br>鉢  | 口径 20.0          | 内凹ぎみに立ち上がる口縁部。縁部は内横する面となり。内に丸くつまる。口縁部外面ヨンナダ。体部内外面ヘラミガキ。口縁部、体部外面に縦状文。眉形文を施す。口縁部外面上端に刺み目を施す。 | 茶褐色  | 2mm程度の<br>石英、チャートを含む<br>など    | 良好 | 第Ⅱ様式 |
| 62           | 弥生式土器<br>鉢  | 口径 13.4          | やや斜め外方へ伸びる口縁部。端面は丸く終わる。口縁部外面ヨコナダ。体部内面ヘラミガキのら指痕によるナダ。外面ヘラミガキ。外曲に直線文を施す。                     | 灰茶褐色 | 1~2mm程度の<br>石英、長石、<br>チャートを含む | 良好 | 第Ⅱ様式 |
| 九            |             |                  |  |      |                               |    |      |
| 63           | 弥生式土器<br>鉢  | 口径 45.6          | 内傾ぎみの体部から丸く外反する口縁部。口縁部端面は下方に肥厚する面をもつ。口縁部、体部内外面ともナダ。口縁端面に縦状文、下端に刺み目。体部に波状文、縦状文を施す。          | 茶褐色  | 2~3mm程度の<br>石英を含む             | 良好 | 第Ⅲ様式 |
| 64           | 弥生式土器<br>高杯 | 口径 42.8          | 内側して立つ直口の鉢。端部は水平な面となり、内につまんで終る。口縁部外面ヨコナダ。体部内外面ヘラミガキ。口縁部1箇の円模文を施す。                          | 淡乳茶色 | 1mm程度の<br>石英、長石、<br>チャートを含む   | 良好 |      |
| 65           | 弥生式土器<br>高杯 | 腹径 15.0          | 直立ぎみの脚部からゆるやかに外反し終る。縁部は面をもつ。外面ヘラミガキ、内面ナダ。  | 淡茶褐色 | 1~2mm程度の<br>石英、<br>長石を含む      | 良好 |      |
| 66           | 弥生式土器<br>高杯 | 腹径 15.8          | 外反する標部。端部は上、下につまみ、面を作る。縁部端面内外面ヨコナダ。縁部内面ナダ。外面ヘラミガキ。   | 淡赤茶色 | 1mm程度の<br>石英、長石、<br>チャートを含む   | 良好 |      |
| 67           | 弥生式土器<br>鉢  | 口径 20.4          | 外反して口縁部は丸く終わる。口縁部内外面ナダ。体部内外面ヘラミガキ。   | 淡赤乳色 | 1~2mm程度の<br>石英、<br>長石を含む      | 良好 |      |
| 68           | 弥生式土器<br>鉢  | 口径 23.6          | 外反する口縁部で端部は丸く終る。口縁部内外面ナダ。外面にナダによる指痕压痕残る。体部内面ハケナダ後ヘラナ。外面ヘラミガキ。                              | 茶褐色  | 1mm程度の<br>石英、長石、<br>雲母を含む     | 良好 |      |

| 遺物番号<br>採取番号 | 器種         | (cm)<br>口径<br>法算<br>容積 | 形態・調査等の特徴   | 色調   | 胎上                                | 焼成 | 備考           |
|--------------|------------|------------------------|---|------|-----------------------------------|----|--------------|
| 69           | 弥生式七器<br>甕 | 口径 19.0                | 短く外反する口縁部。口縁端部下端は巻き込<br>み。口縁部内外面ヨコナギ、体部内面横方向<br>のハケ目。外面施力向と斜方向のハケ目。口<br>縁部内面にハケによる刷毛目。  | 暗茶褐色 | 1mm程度<br>の石英、長石<br>を含む            | 良好 | 第Ⅱ様式<br>大和型。 |
| 九            |            |                        |   |      |                                   |    |              |
| 70           | 弥生式七器<br>甕 | 口径 15.0                | 少し丸く張る体部から外反する口縁部に至る。<br>端部は上下方につまみ外輪する面をもつ。口<br>縁部内外面ヨコナギ、体部内面ヘラミガキ、<br>外面ヘラミガキ後ハケナダ。  | 暗茶褐色 | 1mm程度の<br>石英を含む                   | 良好 |              |
| 九            |            |                        |   |      |                                   |    |              |
| 71           | 弥生式土器<br>甕 | 口径 15.4                | 少し丸く張る体部から外反する口縁部に至る。<br>端部は丸味のある面をもつ。口縁部内外面ヨ<br>コナギ。体部内面ハケナダ、外面ヘラミガキ。                  | 暗茶褐色 | 1mm程度の<br>石英、長石、<br>雲母を含む         | 良好 |              |
| 九            |            |                        |   |      |                                   |    |              |
| 72           | 弥生式土器<br>甕 | 口径 15.0                | ゆるやかに外反する口縁部で、端部は面をも<br>つ。口縁部内外面および体部外面はナダ。体<br>部内面はヘラミガキ後ナダ。                           | 淡茶灰色 | 1~2mm程<br>度の石英、<br>長石、雲母<br>を含む   | 良好 |              |
| 一〇           |            |                        |   |      |                                   |    |              |
| 73           | 弥生式七器<br>甕 | 口径 23.0                | 上方に短く外反する口縁部。口縁部はくぼ<br>む面をもつ。口縁部内外面ヨコナギ。体部内<br>外面ヘラミガキ。                                 | 淡茶褐色 | 1mm程度の<br>石英、雲母<br>を含む            | 良好 |              |
| 一〇           |            |                        |   |      |                                   |    |              |
| 74           | 弥生式土器<br>甕 | 口径 15.2                | 張りの少ない体部から丸く外反する口縁部に<br>至る。端部は下方につまみ外輪する面をもつ。<br>口縁部内外面ヨコナギ、体部内面ヘラミガキ、<br>外面ヘラミガキ後ハケナダ。 | 暗茶褐色 | 1mm程度の<br>石英を含む                   | 良好 |              |
| 一〇           |            |                        |   |      |                                   |    |              |
| 75           | 弥生式七器<br>甕 | 口径 15.4                | やや丸味をもつ体部から丸く外反し口縁部に<br>至る。端部は丸味のある面をもつ。口縁部内<br>外面ナダ、端面に沈線が施されている。体部<br>内外面ともヘラミガキ。     | 茶褐色  | 1mm程度の<br>石英、長石、<br>雲母、角閃<br>石を含む | 良好 |              |
| 一〇           |            |                        |   |      |                                   |    |              |
| 76           | 弥生式七器<br>甕 | 口径 14.8                | 少し張る体部から外反する口縁部に至る。口<br>縁部は面をもつ。口縁部内外面ヨコナギ。<br>体部内面ナダ、外面ハケナダ。                           | 灰白色  | 1mm程度の<br>石英、長石<br>を含む            | 良好 |              |
| 一〇           |            |                        |   |      |                                   |    |              |
| 77           | 弥生式土器<br>甕 | 口径 30.4                | 外反し、丸味のある面をもつ口縁部である。<br>口縁部、体部内外面ともナダ。  | 淡茶灰色 | 1~2mm程<br>度の石英、<br>長石、雲母<br>を含む   | 良好 |              |
| 一〇           |            |                        |   |      |                                   |    |              |
| 78           | 弥生式土器<br>甕 | 口径 33.2                | 外反する口縁部で、端部は面をもつ。口縁部<br>体部内外面ともナダ。  | 淡茶色  | 1mm程度の<br>石英、長石、<br>雲母を含む         | 良好 |              |
|              |            |                        |   |      |                                   |    |              |

| 器物番号<br>内版番号 | 器種         | (cm) 口径 深高 | 形態・調整等の特徴   | 色調   | 胎土                  | 焼成 | 備考 |
|--------------|------------|------------|---|------|---------------------|----|----|
| 79           | 弥生式土器<br>壺 | 口径 45.0    | 外反し端部は下方に肥厚する。口縁部内外面ナダ。外面にナダによる指印状痕残る。体部内面へラミガキ後ハケ、外面へラミガキ。                 | 淡茶灰色 | 1~2mm程度の石英、長石、雲母を含む | 良好 |    |
| 80           | 弥生式土器<br>壺 | 口径 38.2    | ゆるやかに外反する口縁部、端部は面をもつ口縁部内外面ナダ、胴部内面ハケ後ヘラミガキ、外面へラミガキ。                          | 淡茶褐色 | 1~2mm程度の石英、長石、雲母を含む | 良好 |    |
| 81           | 弥生式土器<br>壺 | 口径 37.0    | 肩部は上位で弧る。口縁部はゆるやかに外反する。端部は面をもつ。口縁部内外面ナダ、胴部内外面へラミガキ。                         | 淡茶灰色 | 1~2mm程度の石英、長石、雲母を含む | 良好 |    |
| 82           | 弥生式土器<br>壺 | 口径 39.8    | 口縁部より腹部が丸くはりだし、胴部上端で上方へ丸く彎曲し、口縁部に弧る。口縁端部は上下方へ肥厚し広い面をもつ。胴部内外面はハケ、口縁部内外面ヨコナダ。 | 淡茶灰色 | 1mm程度の石英、長石、チャートを含む | 良好 |    |
| 83           | 弥生式土器<br>壺 | 底径 5.6     | 体部からわずかに突出する平底。内面ナダ、外面へラミガキ。  | 淡褐色  | 1mm程度の石英を含む         | 良好 |    |
| 84           | 弥生式土器<br>壺 | 底径 7.0     | 突出する上げ底状の底部。内面へラミガキ後ナダ、外面ナダ。  | 淡茶色  | 1mm程度の石英、長石、雲母を含む   | 良好 |    |
| 85           | 弥生式土器<br>壺 | 底径 8.4     | ゆるやかにひらく体部から突出する底部。内外面ともにヘラミガキ後ナダ。  | 淡茶褐色 | 1mm程度の石英を含む         | 良好 |    |
| 86           | 弥生式土器<br>壺 | 底径 9.6     | やや突出する上げ底状の底部。内外面ともヘラミガキ後ナダ。  | 淡灰褐色 | 1mm程度の石英、長石を含む      | 良好 |    |
| 87           | 弥生式土器<br>壺 | 底径 4.6     | わずかに突出する上げ底状の底部。内面へラミガキ。外側ナダ。   | 淡茶黄色 | 1mm程度の石英、雲母、角閃石を含む  | 良好 |    |
| 88           | 弥生式土器<br>壺 | 底径 9.4     | 突出する平底。内面滑頭ナダ。外側へラミガキ。  | 淡乳茶色 | 1mm程度の石英、長石を含む      | 良好 |    |

| 遺物番号<br>測定番号 | 器種         | (cm)<br>口径<br>法縦<br>高さ | 形態・調整等の特徴   | 色調    | 熱土                              | 焼成 | 備考 |
|--------------|------------|------------------------|---|-------|---------------------------------|----|----|
| 89           | 弥生式土器<br>壺 | 底径 8.6                 | わざかに突出する上げ底状の底部。内外面ともにヘラミガキ。                              | 淡茶褐色  | 1mm程度の<br>石英、長石<br>を含む          | 良好 |    |
| 90           | 弥生式土器<br>壺 | 底径 8.0                 | 平たく聞く体部からわざかに突出する平底。<br>内面指頭ナデ、外面ナデ。                      | 淡茶色   | 1~2mm程<br>度の石英、<br>長石を含む        | 良好 |    |
| 91           | 弥生式土器<br>壺 | 底径 6.6                 | 平たく聞く体部から突出する底部。内面ヘラ<br>による圧痕が残る。外面底部周縁にナデ、体<br>部にヘラミガキ。  | 淡灰茶色  | 2mm程度の<br>石英を含む                 | 良好 |    |
| 92           | 弥生式土器<br>壺 | 底径 5.4                 | 突出する平底。内面指頭ナデ。外面底部周縁<br>ナデ。体部ヘラミガキ。                       | 暗灰褐色  | 1~2mm程<br>度の石英、<br>雲母を含む        | 良好 |    |
| 93           | 弥生式土器<br>壺 | 底径 6.2                 | 突出する上げ底状の底部。内面ヘラミガキ。<br>外曲底部周縁ナデ、体部ヘラミガキ。                 | 暗茶褐色  | 1mm程度の<br>石英、長石<br>を含む          | 良好 |    |
| 94           | 弥生式土器<br>壺 | 底径 7.6                 | 平たく聞く体部からわざかに突出する上げ底<br>状の底部。内面指頭ナデ、外曲底部周縁ナデ、<br>体部ヘラミガキ。 | 茶灰色   | 2~3mm程<br>度の石英、<br>長石を含む        | 良好 |    |
| 95           | 弥生式土器<br>壺 | 底径 7.6                 | 突出する平底の底部。内面ヘラミガキ、外面<br>ナデ。                               | 淡茶乳白色 | 1~2mm程<br>度の石英、<br>長石、雲母<br>を含む | 良好 |    |
| 96           | 弥生式土器<br>壺 | 底径 6.8                 | 突出する上げ底状の底部。内面表面摩耗のた<br>め調整不明。外曲ナデ。                       | 淡茶灰色  | 2mm程度の<br>石英、長石<br>を含む          | 良好 |    |
| 97           | 弥生式土器<br>壺 | 底径 5.0                 | 突出しない平底。内外面ヘラによるナデ。外<br>面下端指頭によるナデ。                       | 茶褐色   | 1mm程度の<br>石英、長石<br>を含む          | 良好 |    |
| 98           | 弥生式土器<br>壺 | 底径 5.6                 | やや突出する平底。内外ともナデ。内面にナ<br>デによじ鉢底のこる。                        | 淡茶灰色  | 1~2mm程<br>度の石英、<br>長石、雲母<br>を含む | 良好 |    |

| 遺物名号<br>測量番号 | 器種         | (cm)<br>口径<br>周長 | 形態・調査等の特徴   | 色調   | 胎土                         | 焼成 | 備考 |
|--------------|------------|------------------|---|------|----------------------------|----|----|
| 99           | 弥生式土器<br>甕 | 底径 6.6           | 突出する平底。底部内面ナデ、外面ハケ日後ナデ。                                 | 茶褐色  | 1mm程度の<br>石英、長石、<br>雲母を含む  | 良好 |    |
| 100          | 弥生式土器<br>甕 | 底径 5.6           | 突出する上り底状の底部。底部内外面ともにナデ。                                 | 淡茶色  | 1mm程度の<br>石英、長石、<br>ナットを含む | 良好 |    |
| 101          | 弥生式土器<br>甕 | 底径 15.0          | 体部からわずかに突出する上り底状の底部。内面ナデ、外面ヘタミガキ。                       | 茶褐色  | 1mm以下の<br>石英、長石、<br>雲母を含む  | 良好 |    |
| 102          | 弥生式土器<br>甕 | 底径 7.4           | わずかに突出する上り底状の底部。内面ヘタミガキ後ナデ。内面ナデ。                        | 淡茶白色 | 2mm程度の<br>石英を含む            | 良好 |    |
| 103          | 弥生式土器<br>甕 | 底径 4.4           | わずかに突出する上り底状の底部。内面ナデ、外面ハケ日後ナデ。                          | 暗茶灰色 | 1mm程度の<br>石英、長石<br>を含む     | 良好 |    |
| 104          | 弥生式土器<br>甕 | 底径 5.0           | わずかに突出する上り底状の底部。内外面ともにナデ。                               | 暗茶褐色 | 1mm程度の<br>石英、長石<br>を含む     | 良好 |    |
| 105          | 弥生式土器<br>甕 | 底径 4.4           | わずかに突出する平底。内面ナデ、外腹底部周縁ナデ、体部ヘタミガキ、底面に穿孔。                 | 暗茶褐色 | 1mm程度の<br>石英、長石<br>を含む     | 良好 |    |
| —○           |            |                  |   |      |                            |    |    |
| 106          | 弥生式土器<br>甕 | 底径 6.6           | 突出する平底。内外面ともナデ。底面に穿孔。茶褐色                                |      | 1mm程度の<br>石英、長石<br>を含む     | 良好 |    |
| —○           |            |                  |   |      |                            |    |    |
| 107          | 弥生式土器<br>甕 | 底径 10.0          | 突出する平底。倒錐形の体部。内外面ともヘタミガキ。                               | 茶褐色  | 1~2mm程度の<br>砂粒含む           | 良好 |    |
| —○           |            |                  |   |      |                            |    |    |
| 108          | 弥生式土器<br>甕 | 底径 10.0          | 直線的に外へひらく体部。底部はわずかに突出する上り底状である。内面ハケナデ。外面下部ヘタミガキ。上部ハケナデ。 | 淡茶灰色 | 1mm程度の<br>砂粒含む             | 良好 |    |

| 遺物名<br>記載番号 | 器種          | (cm)<br>口径<br>高さ   | 形態・調査等の特徴  | 色調                    | 胎土                  | 焼成<br>備考 |
|-------------|-------------|--------------------|--|-----------------------|---------------------|----------|
| 109         | 弥生式土器<br>甕  | 底径 11.8            | 倒錐形の体部。底部はわずかに突出する平底。内面ハラミガキ、底面は指造ナデ。外面ハケナデ。                             | 茶褐色                   | 1~3mm程度の砂粒含む        | 良好       |
| 110         | 弥生式土器<br>甕  | 口径 12.8            | 頸部より直立きみに立ち、やや外反しながら口縁部に至る。端部は尖りきみの丸味をもつ内面ナデ。外面ハケ後ハラナデ。                  | 1mm程度の石英含む            |                     |          |
| 111         | 弥生式土器<br>甕  | 口径 15.6            | やや直立きみの頸部を経て外反する口縁部に至る。口縁部内外面リコナデ。体部内外表面摩耗のため調整不明。                       | 暗灰茶色                  | 1~2mm程度の石英、長石、長石を含む | 良好       |
| 112         | 弥生式土器<br>甕  | 口径 12.8            | 上外方へ立ち上がる頸部から外反する口縁部に至る。口縁部は丸みのある面をもつ。口縁部、頸部内外面ともヨコナデ。体部内面ハケ後ナデ。外面ハラミガキ。 | 淡茶乳色                  | 1mm程度の石英、長石、雲母を含む   | 良好       |
| 113         | 弥生式土器<br>甕  | 口径 29.6            | 傾曲し外反する口縁部。口縁部は下方におれ曲り、面をもつ。口縁部内外面ともナデ。口縁端面に波状文後円形文。口縁外面に刻文実文後円形序文を施す。   | 淡茶色                   | 1mm程度の石英、長石、雲母を含む   | 良好       |
| 114         | 弥生式土器<br>高杯 | 口径 31.8            | 圓曲して外反する口縁部。端部は丸みのある面をもつ。口縁内面ハラミガキ、外面ナデ。                                 | 暗灰茶色                  | 1mm程度の石英、長石を含む      | 良好       |
| 115         | 弥生式土器<br>甕  | 口径 12.6<br>高さ 10.1 | 丸みをもつ体部からゆるやかに外反し口縁部は尖って終る。口縁部内外面ともナデ。体部内外面ナデ。                           | 淡茶乳色                  | 1mm程度の石英、長石、チャートを含む | 良好       |
| 116         | 土器<br>高杯    | 口径 24.2            | ゆるやかにひろがる。端部は丸みをもって終る。口縁外面ナデ、内外面ハラミガキ。                                   | 淡茶褐色                  | 難良                  | 良好       |
| 117         | 土器<br>甕     | 口径 18.0            | 外反する口縁部。端部は尖り外に面をもつ。口縁部内面ハケ後ナデ。外面ナデ。端部に沈模施す。体部内面ハラケナリ。外面上タキ日。            | 淡灰茶色                  | 1~2mm程度の石英、長石、雲母を含む | 良好       |
| 118         | 土器<br>甕     | 口径 17.2            | 圓曲し外反する口縁部。口縁端部はつまみあげる。口縁部内外面はナデ。体部内面ハラケナリ。外面上タキ日。                       | 淡茶灰色の<br>石英、長石、角閃石を含む | 1~2mm程度の石英を含む       | 良好       |

| 出物番号<br>出版番号 | 名 称       | (口) 法量<br>口径 高さ   | 形 態・ 調 整 等 の 特 徴  | 色 調  | 動 土            | 構 成 | 備 考 |
|--------------|-----------|-------------------|---|------|----------------|-----|-----|
| 119          | 土師器<br>壺  | 口径 20.4           | 外反する口縁部。口縁部は外傾する面をもつ。口縁部外面はナダ。  | 淡茶褐色 | 1~2mm程度の石英を含む  | 良好  |     |
| 120          | 土師器<br>壺  | 口径 8.9<br>高さ 9.4  | 外反して伸びる口縁部。すこし尖りきみな丸底。口縁部内外面ナダ。体部内面ナダ。外側へラケズリ後ナダ。                         | 淡茶色  | 1mm以下の石英、堅母を含む | 良好  |     |
| 一一           |           |                   |   |      |                |     |     |
| 121          | 土師器<br>鉢  | 口径 17.9           | 体部からゆるやかに内寄り一段凹曲し、ふたたび外反する。端部は丸くおむる。口縁部内外面ナダ、体部内面へラミガキ、外側へラケズリ後ナダ。        | 淡茶乳色 | 精良             | 良好  |     |
| 122          | 土師器<br>高杯 | 口径 14.8           | ゆるやかに外反する。口縁部は丸く終る。杯側内面はハケ後ナダ。  | 淡茶色  | 1mm以下の石英、堅母を含む | 良好  |     |
| 123          | 土師器<br>高杯 | 口径 16.4           | ゆるやかに外反する口縁部。端部は面をもつ。口縁部内外面ヨコナダ。杯部内外面ハケナダ。                                | 灰茶色  | 精良             | 良好  |     |
| 124          | 土師器<br>高杯 | 口径 27.8           | 斜上方へ伸び少し外反する口縁部。口縁部は面をもつ。口縁部内外面ナダ。杯部内面はヘラミガキ後ナダ。外側は紙方向のヘラミガキ。             | 淡茶乳色 | 1mm以下の堅母を含む    | 良好  |     |
| 125          | 土師器<br>高杯 | 底径 10.4           | 脚部からゆるやかにひろがる端部で端部は丸らをもっている。内面ハケナダ後ナダ。外側ナダ。                               | 後灰茶色 | 1mm以下の堅母を含む    | 良好  |     |
| 126          | 土師器<br>壺  | 口径 16.6           | 球形の体部からや内寄ぎみに立ち上りる口縁部。端部は内に巻き込む。口縁部内外面ヨコナダ。体部内面ヘラミガキ、上部に指紋による記痕あり、外側ハケナダ。 | 淡茶灰色 | 1mm程度の石英、堅母を含む | 良好  |     |
| 一一           |           |                   |   |      |                |     |     |
| 127          | 土師器<br>壺  | 口径 12.8           | 口縁部は内傾ぎみに立ち上り、端部はくぼみをもつ。肩部はやや張る。口縁部内外面ヨコナダ。体部内面ハケナダ後折頭によるナチ、外側ハケナダ。       | 淡茶褐色 | 1mm程度の石英を含む    | 良好  |     |
| 一一           |           |                   |   |      |                |     |     |
| 128          | 須恵器<br>杯壺 | 口径 14.5<br>高さ 4.8 | 垂直にさがる口縁部で、端部は丸い。外側天井部はヘラケズリ、その他の回転ナダ。                                    | 灰色   | 精良             | 良好  |     |
| 一一           |           |                   |   |      |                |     |     |

| 遺物番号<br>回収番号 | 器種         | (cm)<br>口径<br>法盤<br>脚高    | 形態・調整等の特徴   | 色調  | 胎土              | 焼成 | 備考 |
|--------------|------------|---------------------------|---|-----|-----------------|----|----|
| 129          | 上円板        | 径 5.7                     | 円形で、両面ともへらみカギを施す。七器片をを利用しており、周縁は磨いている。  | 茶褐色 | 1mm程度の<br>石英を含む | 良好 |    |
| —            |            |                           |   |     |                 |    |    |
| 130          | 弦生式上器<br>鉢 | 口径 15.6                   | 内窓して開く体部。口縁端部は内傾ぎみの面をもつ。底部は突出しない平底。口縁部内外に凹ヨコナデ。口縁部外周に注釈1条。体部内面ハケナデ。外底下位粗めのカゴ目。中位やや粗めのカゴ目。上位細いカゴ目を施している。 | 淡茶色 | 1mm以下の<br>粘土を含む | 良好 |    |
| —            |            |                           |   |     |                 |    |    |
| 131          | 石錐         | 長さ 6.3<br>幅 4.3<br>厚み 1.0 | サスカイト製。円基無名式の石錐で、平面は二角形である。両面に素材の剥離面を残している。   |     |                 |    |    |
| —            |            |                           |   |     |                 |    |    |
| 132          | 石錐         | 長さ 9.3<br>幅 3.7<br>厚み 1.2 | サスカイト製。円形無名式で、両面に側面を残している。  |     |                 |    |    |
| —            |            |                           |   |     |                 |    |    |
| 133          | 石錐         | 長さ 6.8<br>幅 3.2<br>厚み 1.6 | サスカイト製。基部は欠損している。両面に素材の側離面を残している。   |     |                 |    |    |
| —            |            |                           |   |     |                 |    |    |
| 134          | 石槍         | 長さ 4.0<br>幅 3.1<br>厚み 0.7 | サスカイト製。裏面に素材の剥離面を残している。表面には研磨がみられる。   |     |                 |    |    |
| —            |            |                           |   |     |                 |    |    |
| 135          | 石椎         | 長さ 4.6<br>幅 3.4<br>厚み 1.1 | サスカイト製。裏面に側面を残す。先端部は欠損している。表面は素材の剥離面を残す。  |     |                 |    |    |
| —            |            |                           |   |     |                 |    |    |
| 136          | 石核         | 長さ 6.0<br>幅 6.8<br>厚み 3.0 | サメカイト製。最打痕は1ヶ所にみられる。表面に側面を残す。   |     |                 |    |    |
| —            |            |                           |   |     |                 |    |    |
| 137          | 石核         | 長さ 5.5<br>幅 6.9<br>厚み 2.1 | サスカイト製。表面に側面を残す。  |     |                 |    |    |
| —            |            |                           |   |     |                 |    |    |
| 138          | 石瓶丁        | 長さ 5.0<br>幅 6.4<br>厚み 0.4 | 半月形直縁刃である。両面とも研磨されている。縦孔が1つある。  |     |                 |    |    |
| —            |            |                           |   |     |                 |    |    |

| 遺物番号<br>出版番号 | 器種<br>法量<br>mm | 形態・調査等の特徴                 | 色<br>緑                                      | 胎<br>土 | 焼成<br>度 | 備考 |
|--------------|----------------|---------------------------|---|--------|---------|----|
| 139          | 石刀             | 長さ 5.4<br>幅 9.6<br>厚み 5.0 | 下月形直刀である。刃先は欠損している。<br>両面とも研磨されているが、刃端面を残す。 |        |         |    |
| 一三           |                |                           |   |        |         |    |

## 第5章 まとめ

調査の結果、第1次調査では、弥生時代前期から古墳時代前期に至るまでの遺物の出土があり、時期不明の遺構を検出している。第2次調査では、弥生時代中期の遺構と古墳時代中期の遺構と時期不明の遺構を検出し、弥生時代前期から古墳時代中期に至るまでの遺物の出土があった。

I 第1次調査 標高8.7~9.2mの第10層暗灰黒色細砂混粘土層内から、弥生時代前期から古墳時代前期に比定される遺物がほとんど磨滅していない状態で多量に出土した。出土した遺物のうちその大半が土器であり、その土器の中でも弥生時代前期末から中期にかけての土器が多数を占めていた。また弥生時代後期（第V様式）から古墳時代前期（布留式期）に至るまでの土器も出土しているが、量的には少量であった。この他、多量に土器を含んでいた第10層の下の標高8.7m付近では、時期不明ではあるが、遺構として小穴1個を検出している。このことから、弥生時代前期から古墳時代前期に至るまでの居住域が、当調査地一帯に存在している可能性があることが明らかになった。

II 第2次調査 第1次調査と同様、第10層から多量の遺物が出土し、この調査では弥生時代中期と古墳時代中期の遺構を検出した。弥生時代中期の遺構は土坑で、土坑内からは弥生時代中期初頭（第II様式）に比定される土器が出土しており、この時期から当調査地一帯で居住していることが明らかになった。また、古墳時代中期の遺構を検出していることや、第10層内からは、弥生時代前期から古墳時代中期に比定される土器がほとんど磨滅をしていない状態で多量に出土していることから、弥生時代中期初頭以後古墳時代中期に至るまでは、当調査地一帯を居住域としていたと推定される。

なお、第1次調査と第2次調査では、ともに第10層から弥生時代前期末に比定される遺物が出土していることから、当調査地近辺に同時期の居住域があると推定されよう。





第1次調査全景（南から）



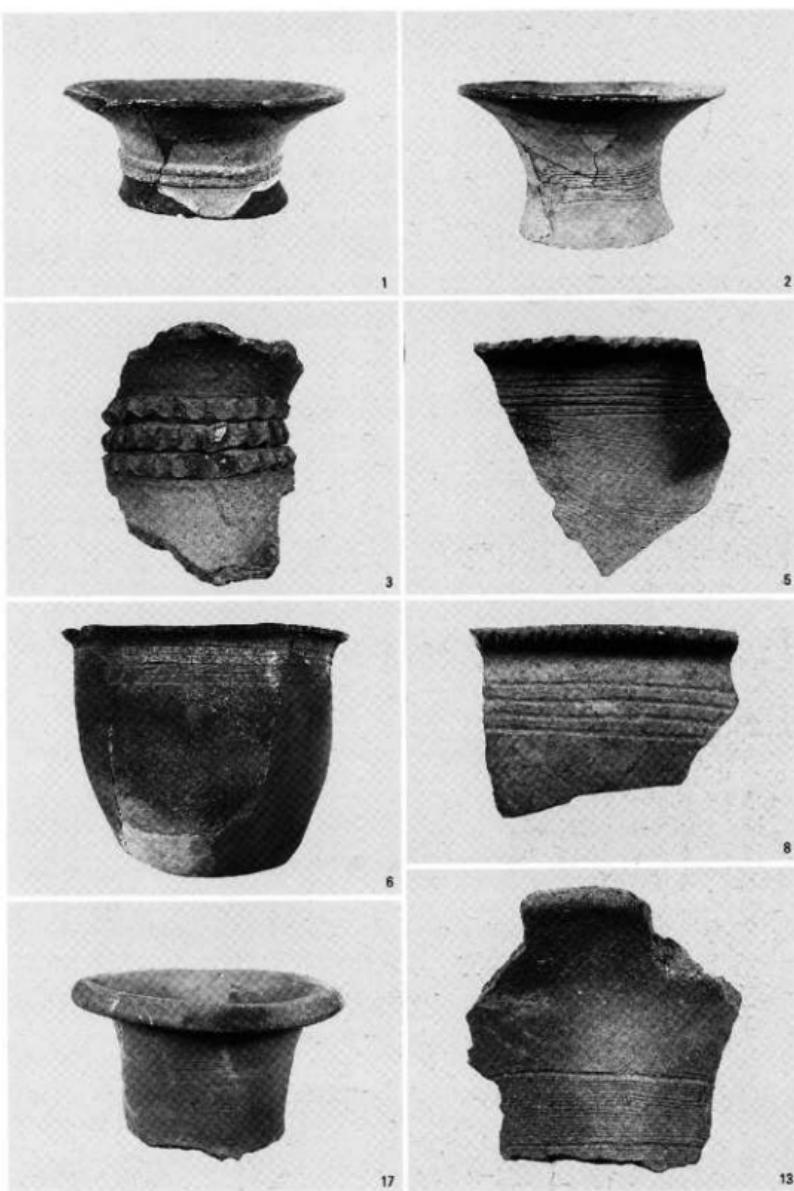
第2次調査全景（東から）



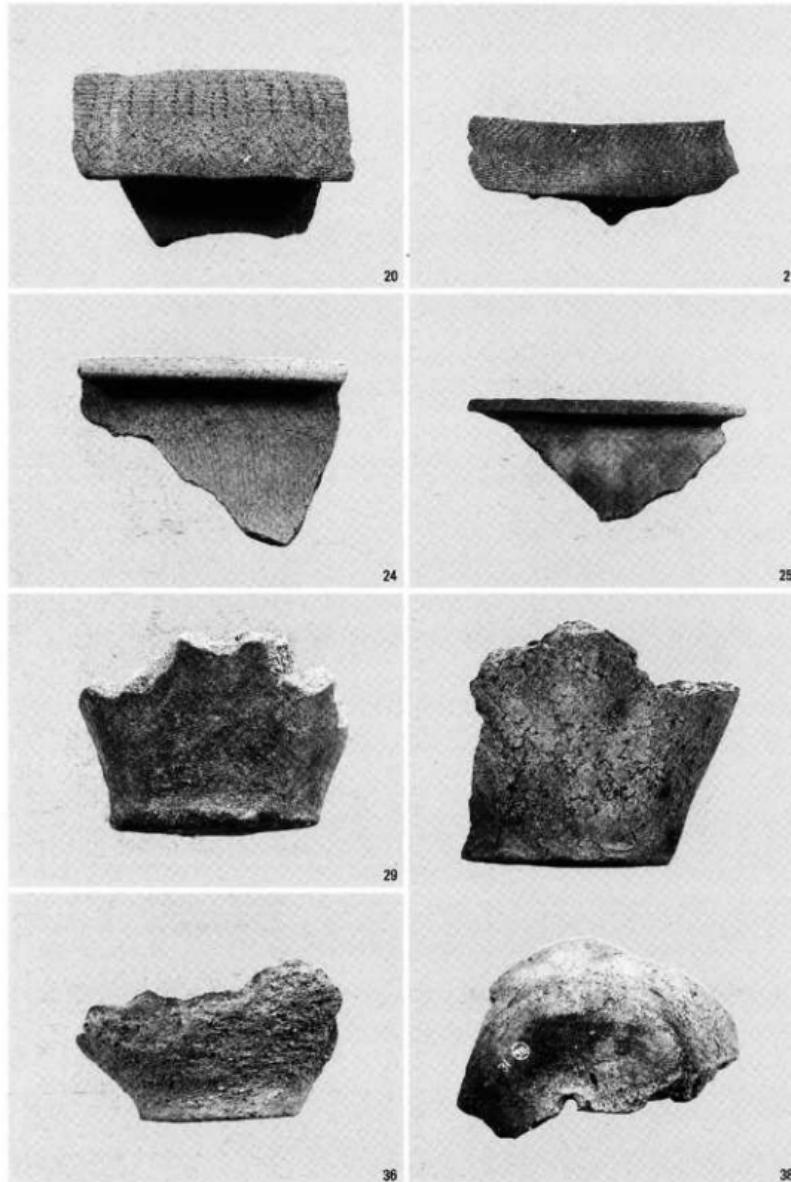
SK-4 遺物出土状況（南から）



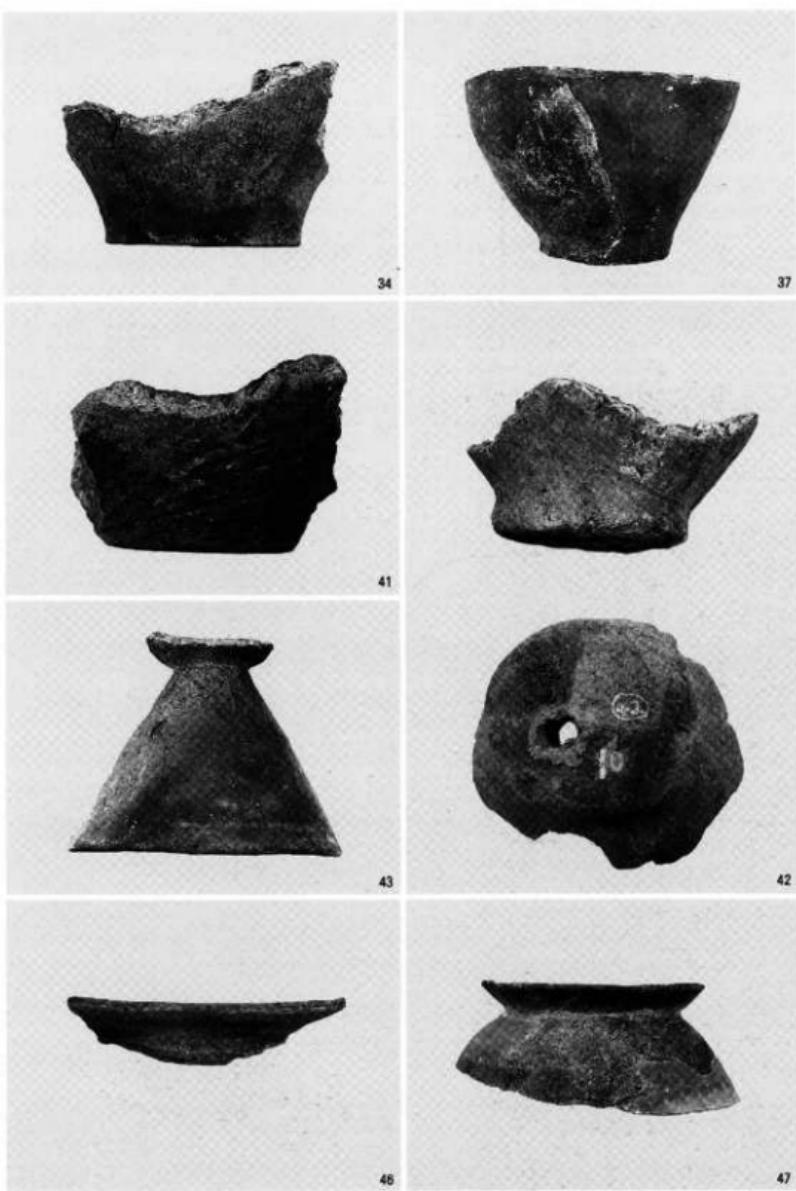
SK-5 遺物出土状況（北から）



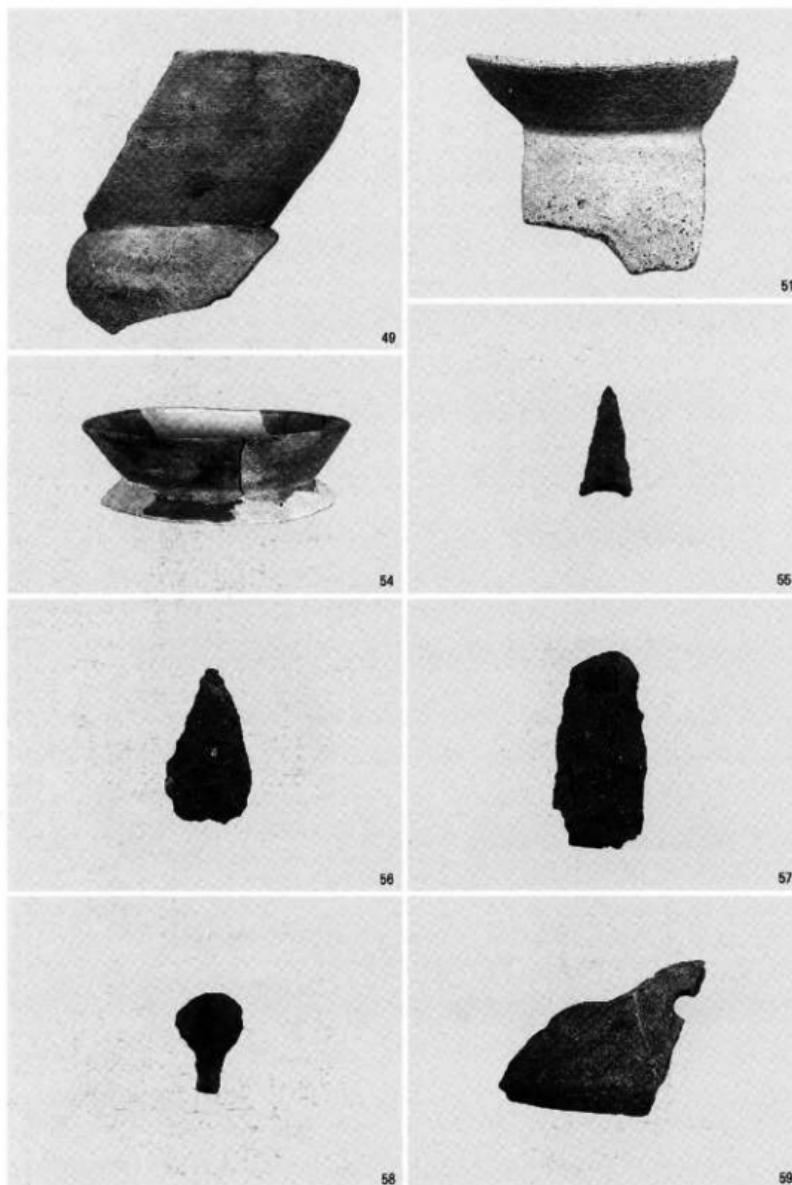
第1次調査第10層出土遺物



第1次調查第10層出土遺物



第1次調査第10層出土遺物



第1次調查第10層出土遺物